

令和7年度

第3回 不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会

<説明資料>

資料2 次世代サポート課資料

- ・ 信州型フリースクール認証制度令和7年度第2期認証について
- ・ フリースクール向け研修
- ・ フリースクール利用家庭の経済的負担やその支援状況等に関する調査結果

長野県教育委員会事務局 心の支援課

長野県県民文化部こども若者局 次世代サポート課

「信州型フリースクール」令和7年度第2期分を認証しました

令和6年4月に創設した「信州型フリースクール認証制度」に基づき、信州型フリースクールとして令和7年11月27日付けで3か所を認証しましたので、お知らせします。

1 今回認証した信州型フリースクール

学び支援型 1か所

居場所支援型 2か所 ※認証した信州型フリースクール一覧は別紙のとおり

学び支援型：居場所支援のほか、比較的高い開所頻度により、学びの提供に積極的に取り組んでいるもの

居場所支援型：学び等の土台となり得る、社会的自立や生活自立に向けた相談支援に重点を置いて取り組んでいるもの

認証制度等の詳細はコチラ↓



<kikka☆link～きっか・リン～
長野県フリースクール等情報ポータルサイト>

2 認証期間

令和7年11月27日から令和10年11月26日までの3年間 (以降更新可)

3 制度検討や認証審査の経過

<令和5年度>	有識者、フリースクール運営者、不登校経験者や保護者等で構成される認証制度検討会議において、仕組み・基準等を検討(6回開催)
<令和6年度>	認証制度を創設し、第1～3期分で計37か所を認証
<令和7年度>	
7月24日	4か所を認証(※)うち1か所は居場所支援型から学び支援型への変更
9月1日～9月26日	認証申請(第2期)を受付
9月29日以降	申請書類の審査・現地確認を行い、外部有識者による認証懇談会で認証の意見聴取を実施
11月27日	3か所を認証(累計認証数43か所)

4 県による信州型フリースクールへの支援等

- ・認証フリースクールが多様な学びを提供し、継続的な運営ができるよう、運営経費への支援を行います。
- ・フリースクールへの体制支援として、職員向けの研修、情報発信及び交流・連携促進を実施します。

kikka☆link
～きっか・リン～

長野県フリースクール等情報ポータルサイト



長野県内フリースクール等
民間施設の活動概要を掲載!

(問合せ先)

担当 県民文化部子ども若者局次世代サポート課
次世代支援係 玉井、駒村
電話 026-235-7208 (直通)
026-232-0111 (代表) 内線 2859
FAX 026-235-7087
E-mail jisedai-shien@pref.nagano.lg.jp

(別紙)

信州型フリースクール一覧（令和7年11月27日付け認証）

【学び支援型：1か所】

番号	施設等名	申請名（団体等名）	所在市町村
1	チャイルドアカデミー友学舎 長野	有限会社ネイチャーセンター	長野市

【居場所支援型：2か所】

番号	施設等名	申請名（団体等名）	所在市町村
1	おーかのうち	特定非営利法人 Oooka 森の学び舎	長野市
2	ハヶ岳森と高原の自然学校やっほー	ハヶ岳森と高原の自然学校やっほー	富士見町

信州型フリースクール 認証マップ[®] (R7.11現在)

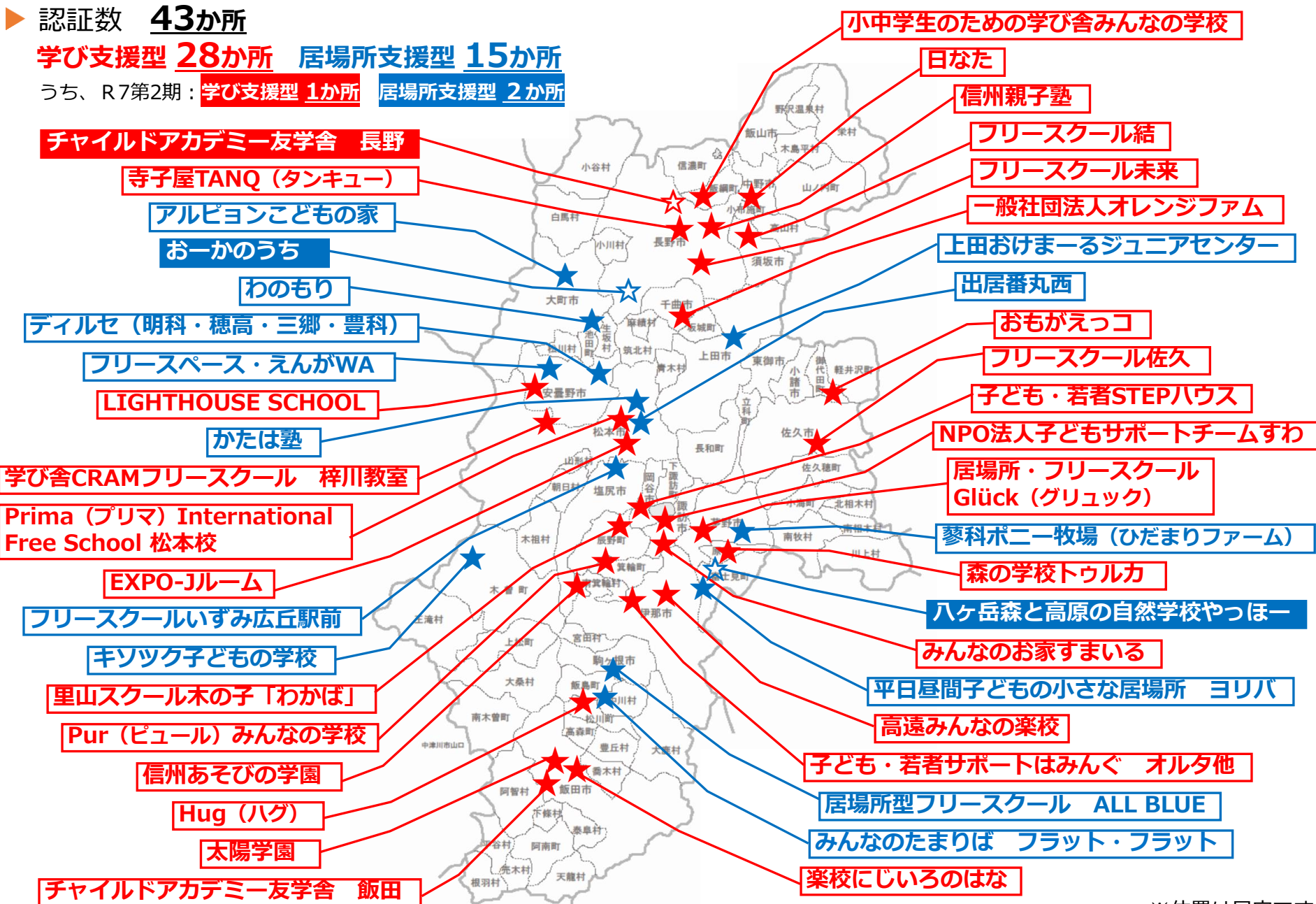


しあわせ信州

▶ 認証数 **43**か所

学び支援型 **28**か所 居場所支援型 **15**か所

うち、R7第2期：学び支援型 **1**か所 居場所支援型 **2**か所



※位置は目安です

認証フリースクールは、認証期間（3年毎に更新）において、以下の14講座の研修を運営者やスタッフが受講することを要件としている。

【オンライン研修の受講または自主研修：3年間で計8講座 対面研修の受講：毎年度2講座、3年間で計6講座】

研修方法等	オンライン研修※ (アーカイブ配信)	対面研修	自主研修 (対面又はオンライン)
主体	県(委託)	県(委託)	フリースクール
講座	必修、選択、その他	必修	任意
講座数	全17講座 (約50本の10分程度の動画で構成)	全2講座 (毎年テーマを設定)	任意
開催回数等	各団体が受講しやすい 日時に実施	1講座につき2回 県内4地区で開催	任意
1講座時間	60分程度	120分程度	任意
費用	委託料	委託料	補助金の活用

※オンライン研修の内容

- ・不登校支援を巡る国や関係機関の最新の動向
- ・学びや支援内容に関する情報の発信・管理
- ・信州らしい地域・社会資源の活用
- ・フリースクールにおける安全管理
- ・子どもの権利、こども基本法の理解
- ・不登校等の子どもとの関わり方、相談対応 など

<R6対面研修>



「信州らしい地域・社会資源の活用」

<R7対面研修>



「救急救命講習」

<オンライン研修動画>



「個別支援計画作成」

「在籍校との連携体制づくり」



「CAP(子どもへの暴力防止プログラム)講習」

フリースクール利用家庭の経済的負担や支援状況等に関する調査結果 概要版（ポイント）

長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課

1 調査概要

目的：フリースクールを利用する児童生徒の保護者を対象に、フリースクール利用に係る経済的負担や支援状況等のアンケートを実施し、今後の支援策の検討に活用する

対象：長野県内でフリースクールを利用している主に小中学生（小1～中3）の保護者

方法：インターネット調査（Google フォーム）

期間：令和7年9月22日～10月17日

回答数：106件

2 調査結果の概要及び考えられる必要な対応

（1）回答者のお子さんの状況について（設問1～8）

- ・学校を休み始めた時期は小学1年生が最も多く、36.4%。
- ・学年は主に小学3～6年生と中学1・2年生で、週3回以上のフリースクール利用者が44.2%。

（2）フリースクール利用家庭の経済的負担（設問9～15）

- ・全体の72%が負担を感じている。
 - ・一人当たりの月額平均費用は23,850円で、5千円未満が最多の26%である一方、5万円超も12%と、施設により大きな差がある。また、入会金（一時費用）は、5千円未満が70%だが、5万円超も10%。
 - ・特に金銭的に負担を感じている項目は、高い順から利用料（会費）>交通費（送迎代、ガソリン代含む）>昼食/飲食代>入会費。
 - ・自由記述では「仕事は減り支出は増えた」、「送迎負担が大きい」などの趣旨の回答のほか、経済的負担が理由でフリースクール利用を断念又は利用頻度を抑制せざるを得なかったなどの回答があった。
- ⇒ **利用料や交通費などに関する経済的負担感が強いことから、こうした費用への補助が求められる。**

（3）フリースクールの利用の保護者の就労への影響（設問11）

- ・全体の78%の保護者が働き方に何らかの変化を経験。
 - ・主な変化は、「勤務時間・業務量の減少」（44%）、「早退・遅刻の増加」（21%）、「退職」（16%）、「転職」（15%）、「欠勤の増加」（13%）など。多くの利用家庭で収入の減少が生じる一方、フリースクール等の利用料負担による支出増加が同時に発生している。
 - ・自由記述では「送迎で働けない」、「仕事を辞めざるを得ない」などの回答が目立つ。
- ⇒ **保護者の働き方に大きな影響が出ていることから、送迎への支援、柔軟な働き方といった仕組みづくりの検討や、職場での理解促進が求められる。**

（4）フリースクールの利用による変化（設問16～17）

- ・全体の98%が「利用により良い変化あり」と回答。
- ・主な変化は、「子どもの笑顔が増えた」（78%）、「興味・関心の幅が広がった」（62%）、「子どもが自分の意見を言うようになった」（49%）、「保護者の孤立感軽減」（36%）などのほか、家族関係が改善した旨の回答も一定割合ある。

(5) 不登校の子どもの親の会の参加状況とニーズ（設問 18～26）

- ・親の会に参加したことがある家庭は53%で、参加経験なしが47%。参加頻度は月1回以上が21%、不定期利用や過去に参加したが現在は参加していない方も多い。
- ・参加のきっかけは「フリースクールからの紹介」が最多で64%。参加で得られたことは「情報やアドバイス」(70%)、「同じ悩みを持つ保護者との交流」(68%)など。
- ・不参加理由は「時間が合わない」が42%と最多。なお、開催されていることを知らない旨の回答も複数あった。

⇒ **保護者の孤立感軽減や情報共有の場として重要な親の会について、その周知の強化や多様な参加形態の充実が求められる。**

(6) 行政による支援制度の認知・利用（設問 27～36）

- ・長野県の施策に対する認知について、知らないと回答した方は、「信州型フリースクール認証制度」(41%)、「長野県フリースクール等情報ポータルサイト（愛称：kikka☆link～きっか・リン～）」(53%)、県教育委員会作成した「はばたき～不登校児童生徒の学びのサポートガイド～」(87%)、「子ども・保護者と学校・市町村を結ぶきっかけづくりのためのコミュニケーションシート」(78%)。
- ・県内市町村におけるフリースクールの利用者支援制度（家庭への補助金など）の利用は26%、「知らない」、「制度がない」が54%。制度へのニーズとしては、「補助制度があれば利用したい」が92%。
- ・制度を利用している方の既存の利用者支援制度に対する満足度については、満足が27%、満足ではないが45%。
- ・自由記述では、制度の周知とその使いやすさが課題との意見もあった。

⇒ **行政が実施する支援制度について、認知度を高めるための情報発信の強化が求められる。**

(7) 長野県（行政）への今後の施策ニーズ（設問 37～38）

- ・行政に求める今後の支援としては、「利用料への補助」(72%)が最も多く、次いで「情報提供の充実」(60%)、「フリースクールの質の保証」(35%)、「保護者の職場・勤務先での理解促進」(33%)など。
- ・自由記述では、「経済的負担が大きいため、より充実した補助を求める」、「学校や行政と連携した、多様な学びを支える仕組みを整えてほしい」などの意見があった。

調査結果の詳細は、下記ホームページ「長野県フリースクール等情報ポータルサイト（愛称：kikka☆link～きっか・リン～）」をご覧ください。

URL : <https://www.shinshu-freeschool.jp/>



**フリースクール利用家庭の経済的負担や
支援状況等に関する調査結果**

令和8年1月

**長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課
委託事業者：特定非営利活動法人多様な学びプロジェクト**

目次

1 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査対象
- (3) 調査方法
- (4) 調査項目の概要

2 調査結果

- (1) 回答者及びお子さんの基本属性
- (2) フリースクールの利用状況
- (3) フリースクールの利用における経済的負担等
- (4) フリースクール利用による効果
- (5) 親の会への参加状況等
- (6) 長野県等による支援制度の認知及び活用状況
- (7) 行政に対するご意見等

I 調査の概要

(1) 調査の目的

長野県内でフリースクールを利用する児童生徒の保護者を対象に、フリースクールの利用状況や経済的負担、親の会への参加状況や県・県内市町村による支援等に関するアンケートを実施し、保護者視点からの現状・課題の把握や家庭の負担軽減策の検討を促進させることを目的とする。

(2) 調査対象

長野県内のフリースクールを利用している児童生徒の保護者

(3) 調査方法

調査方法: インターネット調査 (Google フォーム)

調査期間: 令和7年(2025年)9月22日~10月17日

回収数: 108件

有効回答数: 106件 (有効回答率98%)

(4) 調査項目の概要

- ① 回答者およびお子さんの基本属性 (居住地、学年等)
- ② フリースクールの利用状況 (利用施設、頻度、期間等)
- ③ フリースクールの利用における経済的負担等 (費用、負担感、補助金等)
- ④ フリースクール利用による効果
- ⑤ 親の会への参加状況等
- ⑥ 長野県等による支援制度の認知及び活用状況
- ⑦ 行政に対するご意見等

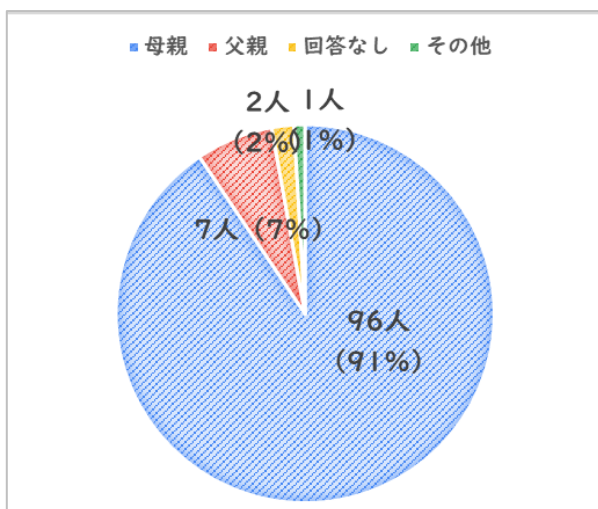
※具体的なエピソード (自由記述)

2 調査結果

(1) 回答者及びお子さんの基本属性

設問1：回答者のお立場を教えてください。(N=106)

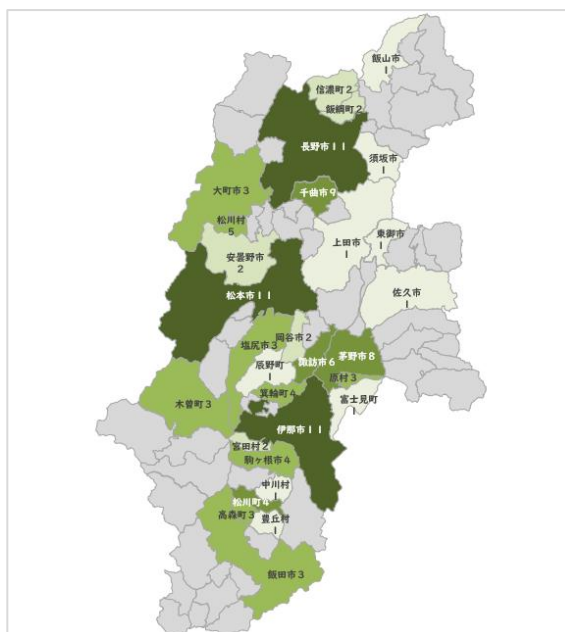
- ・ 回答者の91%が母親。7%が父親からの回答。
- ・ その他は親戚1名、回答なし2名。



設問2：回答者のお住まいの市町村(N=106)

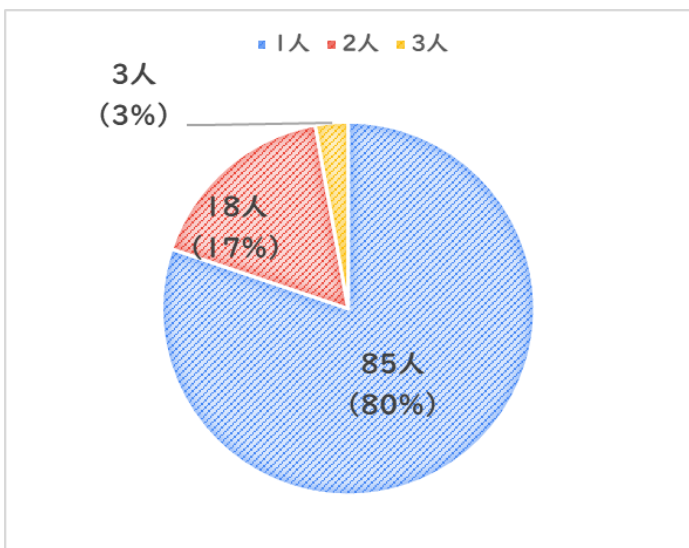
- ・ 長野市、松本市、伊那市を中心に29市町村にお住まいの利用家庭から回答があった。

市町村	回答者数	市町村	回答者数
長野市	11	東御市	1
松本市	11	安曇野市	2
上田市	1	富士見町	1
岡谷市	2	原村	3
飯田市	3	辰野町	1
諏訪市	6	箕輪町	4
須坂市	1	中川村	1
伊那市	11	宮田村	2
駒ヶ根市	4	松川町	5
大町市	3	高森町	3
飯山市	1	豊丘村	1
茅野市	8	木曾町	3
塩尻市	3	信濃町	2
佐久市	1	飯綱町	2
千曲市	9		



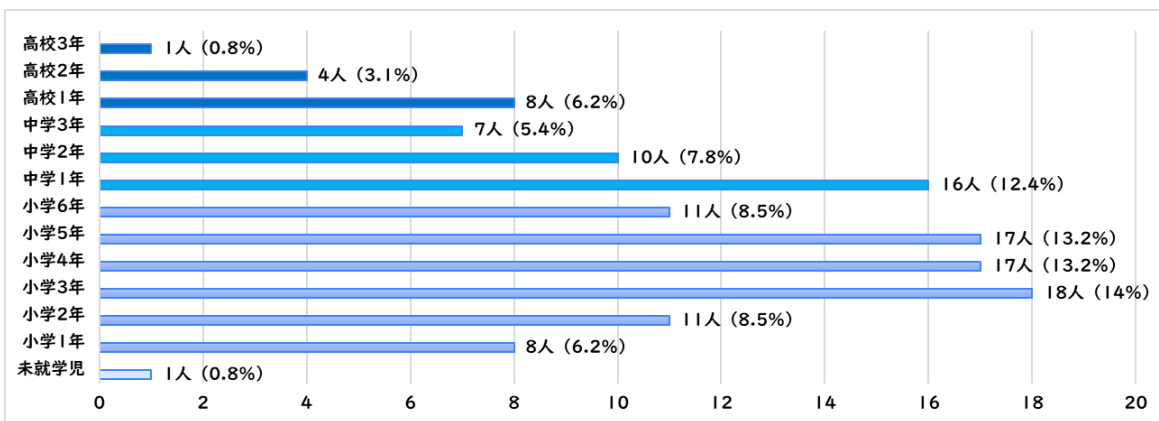
設問3:フリースクールを利用するお子さんの人数をお聞かせください。(N=106)

- ・ 家庭内のフリースクール利用人数は1名が中心(80%)。
- ・ 複数名が利用している家庭は20%。



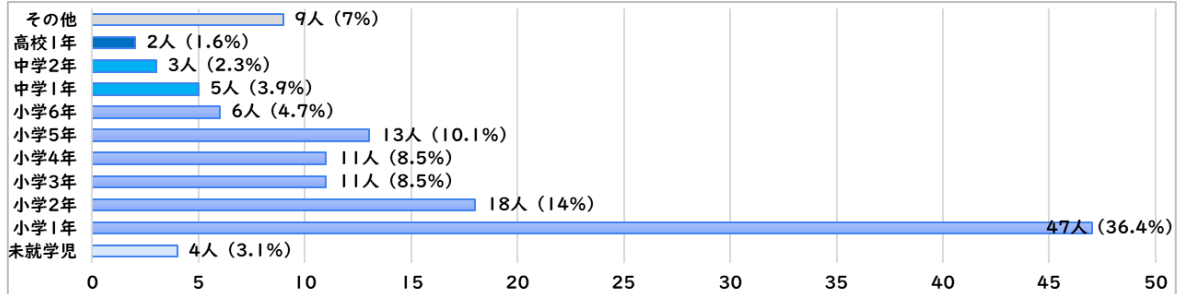
設問4:ご家庭のお子さんの現在の学年を教えてください。(N=129)

- ・ 小学校の中～高学年(小学3年～6年)63名(49%)、中学1,2年生が26名(20%)。
- ・ 内訳は、未就学児1名、小学生82名、中学生33名、高校生13名と小学生が大半。



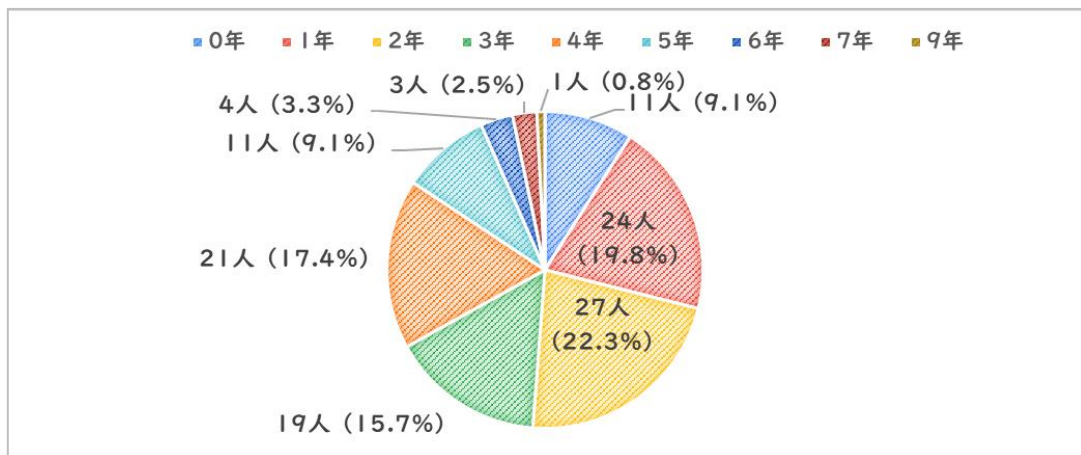
設問5:ご家庭のお子さんが学校を休み始めた時期を教えてください。(N=129)

- ・ 休み始めた時期は36%が小学1年。
- ・ 休み始めたのではなく、進学時からフリースクールを選択し利用し始めた家庭(6名)、学校は休んでいないがフリースクールを利用する家庭(3名)もあり。



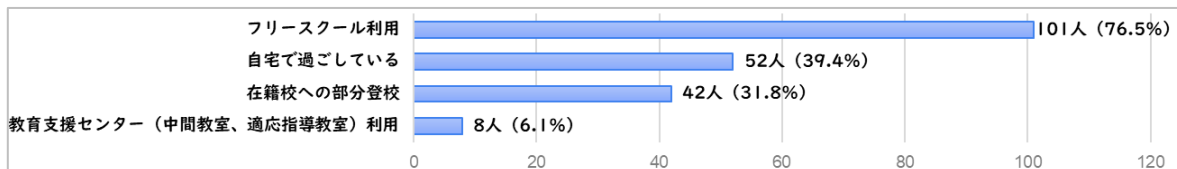
(参考) 学校を休み始めてから、現在までの期間(現在の学年から学校を休み始めた時期を差引(設問4-設問5)) ※4月1日時点の年齢に変換し、年数で簡便的に算出 (N=121)

- ・ 休み始めてから3年未満の家庭が約半数(62件,51%)。平均は2.7年で、中央値は2年。



設問6:お子さんの現在の平日日中の主な過ごし方をお聞かせください。(N=123)

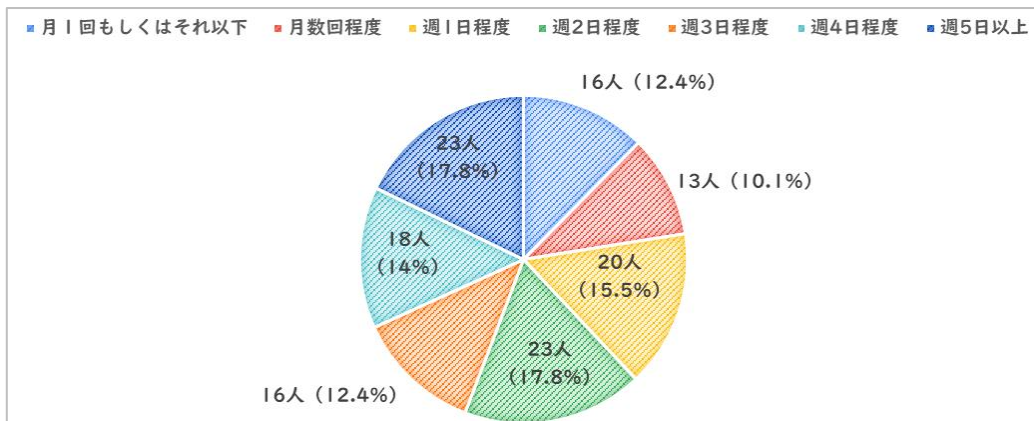
- ・ 平日日中はフリースクール利用が101名(76.5%)。教育支援センター利用は8名(6.1%)。
- ・ その他(自由記述)、「在籍校に登校(別室/支援クラス等含)」、「他校の中間クラス」、「放課後等デイサービス」、「公共施設(図書館等)」、「習い事」、「医療機関等のリハビリ」等の回答があった。



(2) フリースクールの利用状況

設問7: お子さんのフリースクールの利用頻度をお聞かせください。(N=129)

- ・ 利用頻度は幅広く分かれている(中央値は週2日程度)。
- ・ 全体の44.2%が週3回以上の利用。



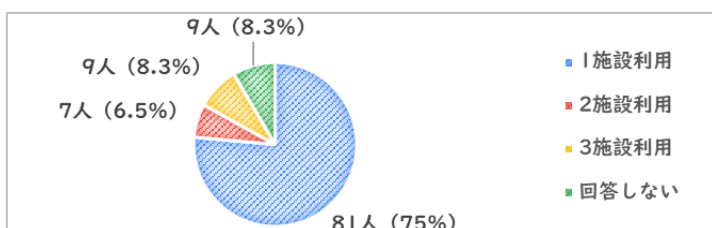
設問8: 利用しているフリースクールの施設名と所在する市町村名について、差し支えなければお聞かせください。(N=106) ※複数回答可

- ・ 「答えたくない」9名を除く97名、37施設の利用者から回答があった。
- ・ 全体の15%弱が複数のフリースクールを利用している。

市町村	施設名	回答数	市町村	施設名	回答数
長野市	a施設	6	大田市	s施設	2
	b施設	3		茅野市	t施設
	c施設	2	u施設		2
	d施設	1	v施設	1	
松本市	e施設	4	塩尻市	w施設	3
	f施設	2	千曲市	x施設	12
	g施設	3	安曇野市	y施設	1
	h施設	2	富士見町	z施設	2
	i施設	1		A施設	1
上田市	j施設	1	原村	B施設	4
飯田市	k施設	2	C施設	4	
	l施設	1	辰野町	D施設	3
諏訪市	m施設	6	箕輪町	E施設	4
	n施設	2	中川村	F施設	1
須坂市	o施設	1	松川町	G施設	11
伊那市	p施設	15	木曾町	H施設	3
駒ヶ根市	q施設	4	池田町	I施設	1
	r施設	1		J施設	1
			飯綱町	K施設	5

※個人・団体の特定を避けるため、フリースクール名は記載していない。

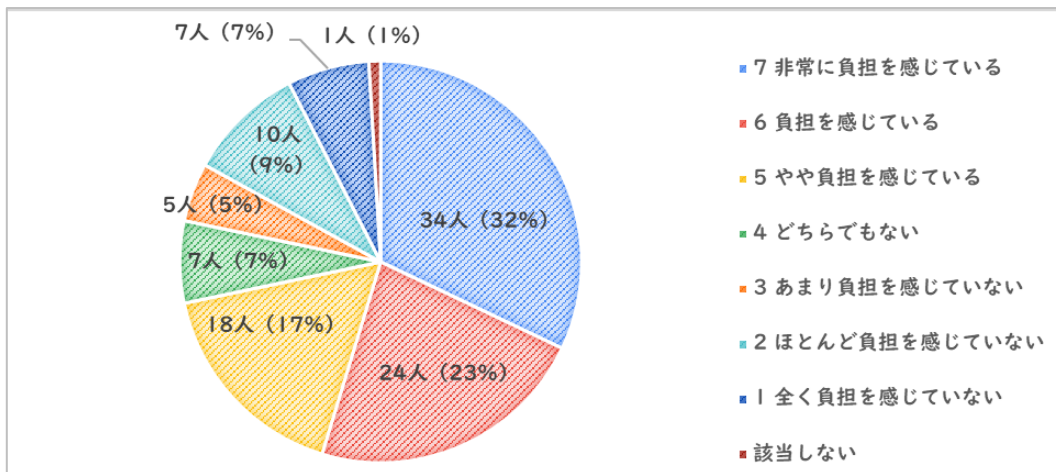
(参考) 回答者毎の施設利用数 (N=106)



(3) フリースクールの利用における経済的負担等

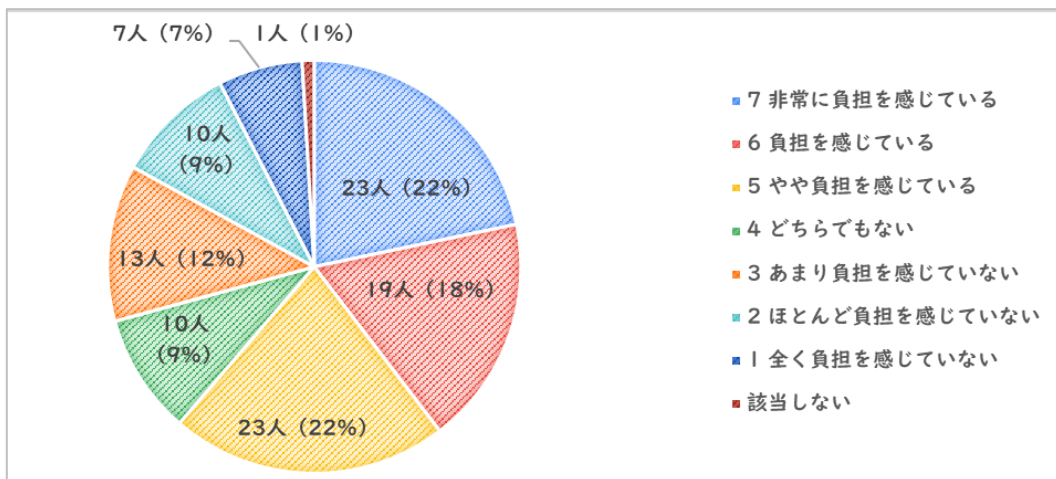
設問9: フリースクールの利用にかかる費用全体について、どの程度の経済的負担を感じていますか? (N=106)

- ・ 全体の72%が、フリースクールの利用に関する経済的負担を感じている。
- ・ 特に「非常に負担」「負担」を合わせると、55%の家庭が負担感を感じている。



設問10: 設問9のうち送迎にかかる費用(交通費、ガソリン代等)について、どの程度の経済的負担を感じていますか? (N=106)

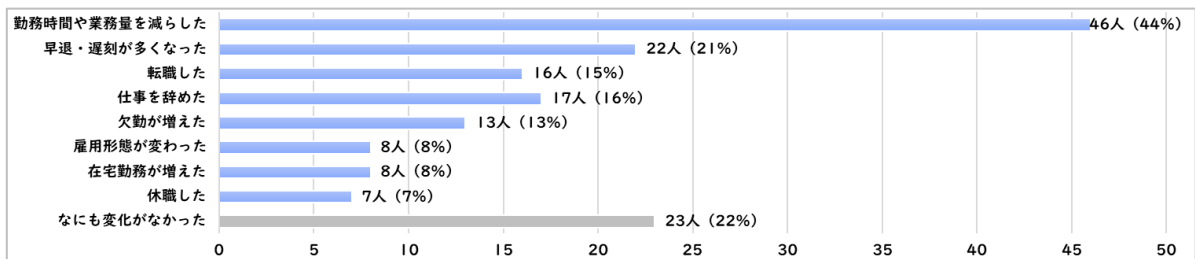
- ・ 全体の62%がなんらかの負担を感じている。



設問11：お子さんの不登校をきっかけに、ご自身の働き方にどのような変化がありましたか？

実際に経験したものを選択してください（複数選択可）（N=104）

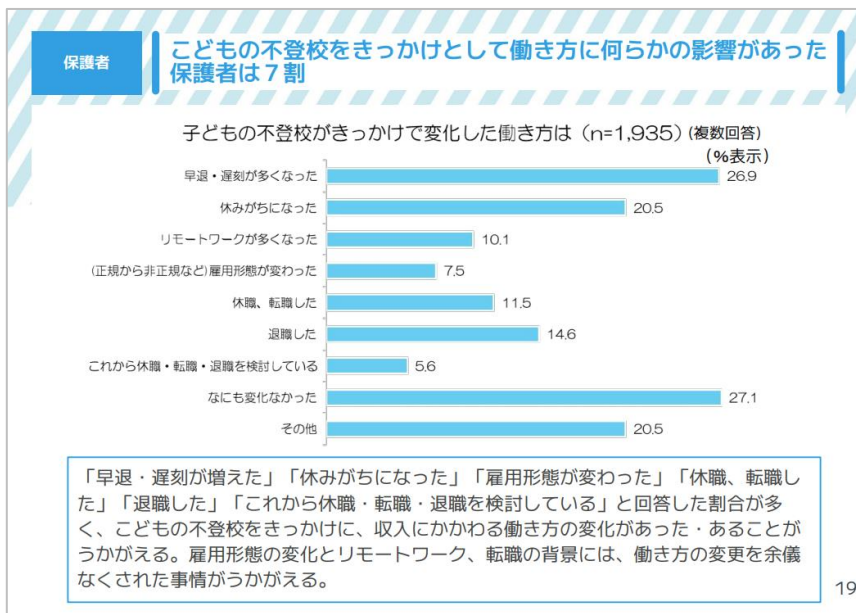
- ・ 全体の78%が働き方になんらかの影響があった（81件）。また、その他の回答中には「仕事をしていないタイミングだった」、「仕事を始めるのをのばした」（同様の回答6件）などが含まれる。
- ・ 「勤務時間や業務量を減らした」（44%）、「早退・遅刻が多くなった」（21%）、「欠勤が増えた」（13%）と働く時間や量への影響がある。
- ・ 「転職」、「雇用形態が変わった」が計23%、「退職」、「休職」が計23%と、仕事そのものの変化への影響がある。
- ・ 回答者が母親中心であることから、より影響が強く出た可能性が伺える。



（参考）同様の全国調査との比較（多様な学びプロジェクト全国調査(2023)/ 滋賀県フリースクール等民間施設を利用する保護者アンケート調査結果(2024)より）

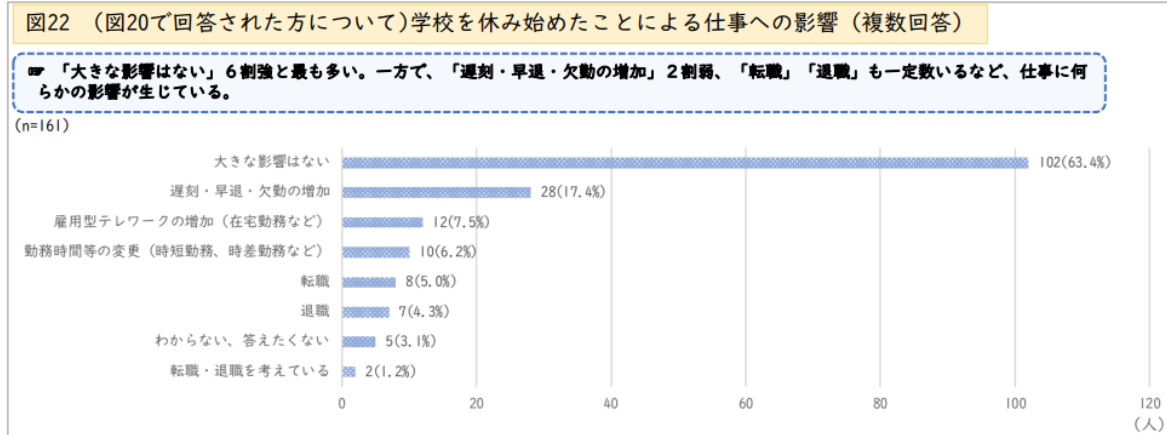
- ・ 全国調査と比較すると、働き方に変化を受けた割合が若干（5%程度）多い。地理特性の他、母集団の違いによる可能性もあり。

※（参考）多様な学びプロジェクト全国調査（2023）

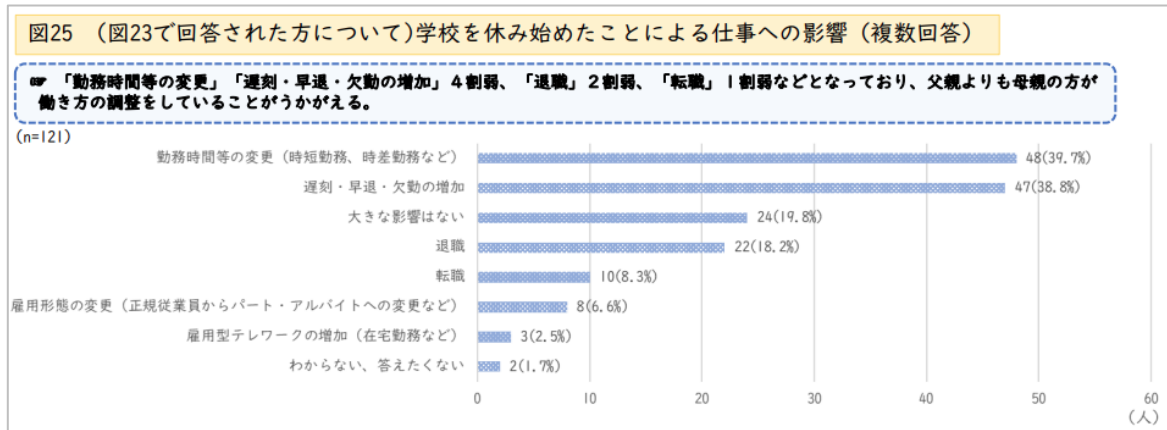


※(参考)滋賀県フリースクール等民間施設を利用する保護者アンケート調査結果(2024)

・家庭内での第一収入者における影響

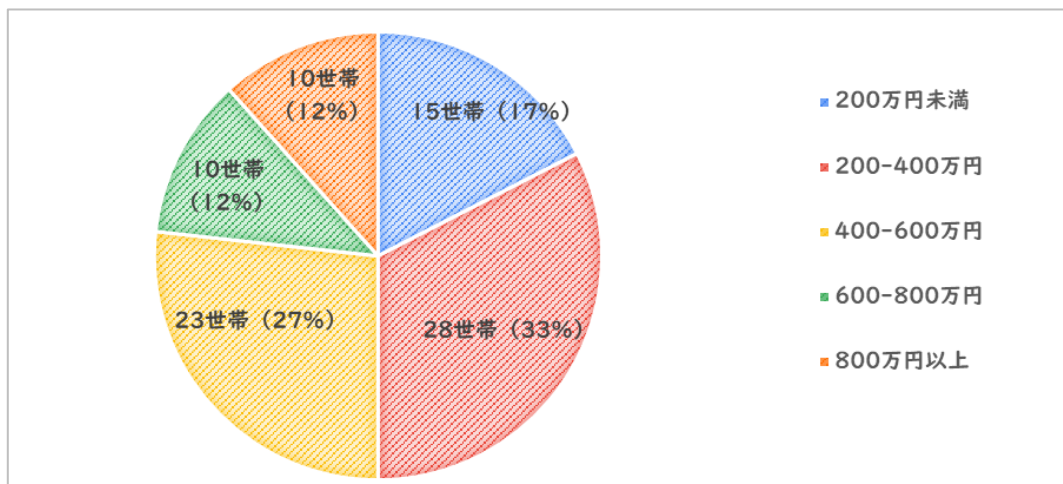


・家庭内での第二収入者における影響



設問12:ご自身の世帯年収について差し支えなければ教えてください(N=86)

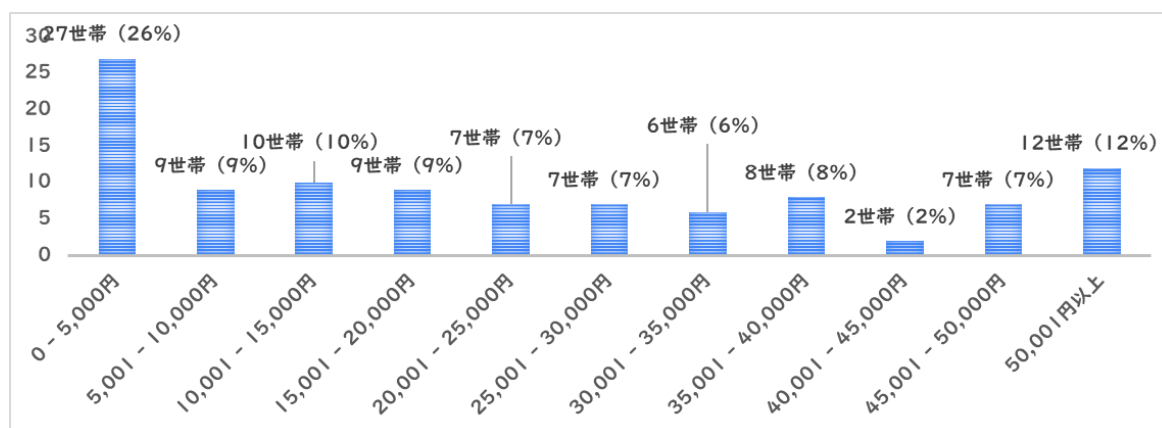
- ・ 全体の33%が200~400万円、27%が400~600万円、17%が200万円未満、12%が600~800万円、12%が800万円以上。



設問13: 現在フリースクールを利用するにあたって支出している各種費用について教えてください。
(N=104)

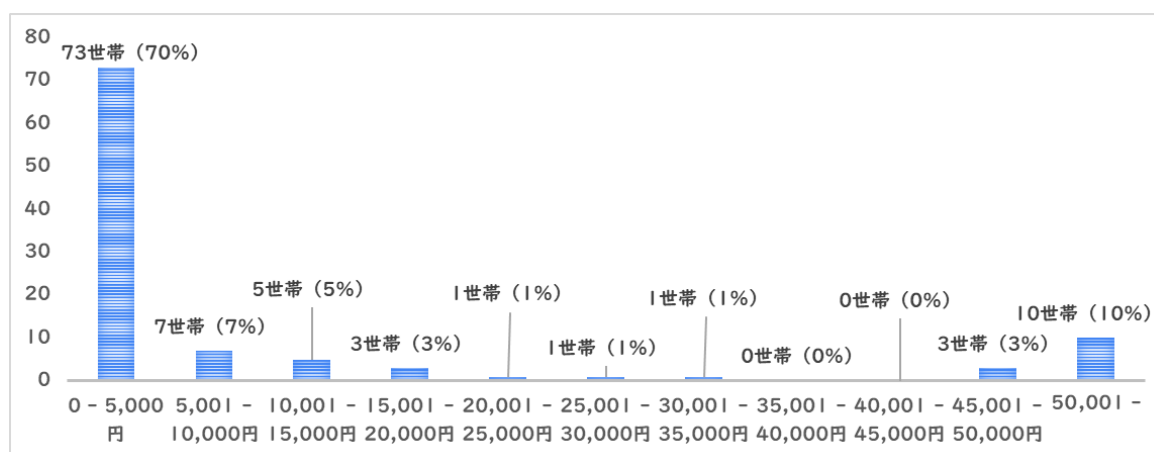
一人当たり月額費用全体:

- 一人当たり月額費用全体は、5,000円未満の世帯が26%である一方で、50,000円を超える世帯も12%存在し、施設により大きな開きがあり、大きな額の負担をしている世帯も一定数存在する。
- 平均値は23,850円、中央値は19,250円と、おおよそ2万円前後の負担。



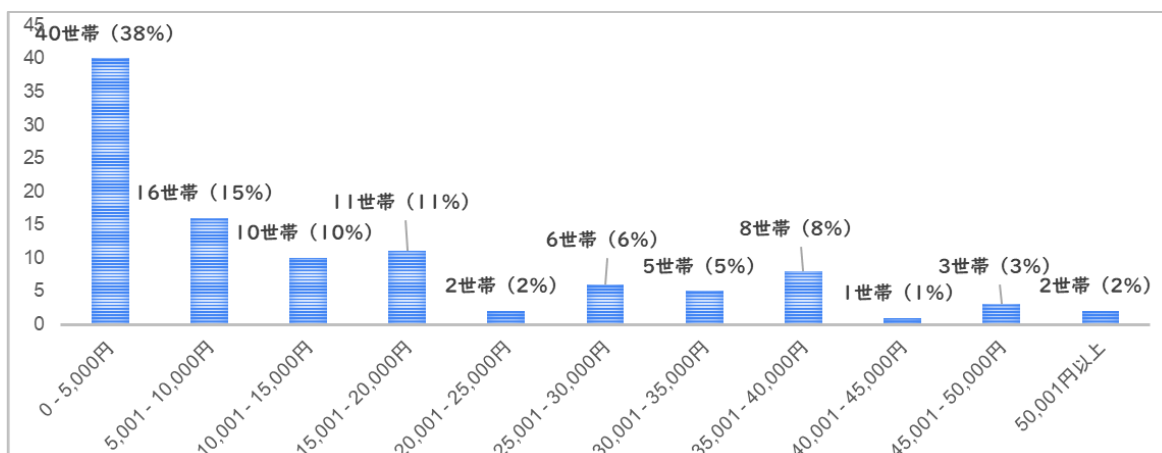
設問13-1: 入会金 (一時費用)

- 入会金 (一時費用) は、無料の世帯が約5割、5,000円未満まで含めると70%である一方で、50,000円を超える世帯が10件 (10%)。9件は100,000円台となり、施設により大きな開きがある。
- 平均値は13,790円、中央値は0円。一部の施設において大きな負担となっている。



設問13-2:利用料(月会費)

- ・ 利用料(月会費)は、他の費用と同様、施設により大きな開きがある。
- ・ 平均値は15,050円、中央値は10,000円。



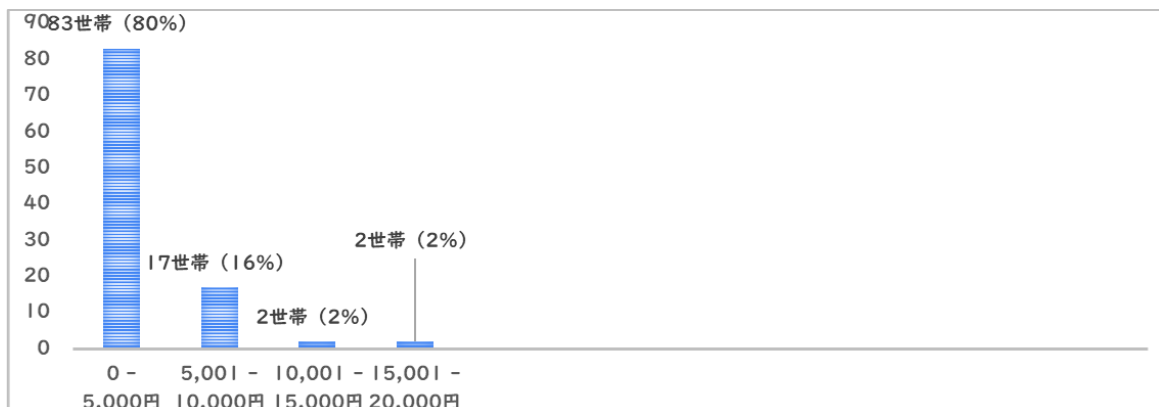
設問13-3:交通費(月額)

- ・ 交通費は、5,000円未満が76%だが、多くの世帯で費用が発生している。
- ・ 平均値は3,848円、中央値は2,000円。



設問13-4: 昼食/飲食費用(月額)

- ・ 昼食/飲食費用(月額)は、多くの世帯で発生している。
- ・ 平均値は3,332円、中央値2,000円。
- ・ 一部世帯では10,000円を超える費用が発生している。



設問13-5: 行事参加費(年額→月額換算)

- ・ 5,000円未満が93%。
- ・ 平均値1,068円、中央値は100円未満と、発生していない世帯が多い。
- ・ わずかな世帯で10,000円を超える費用が発生している。

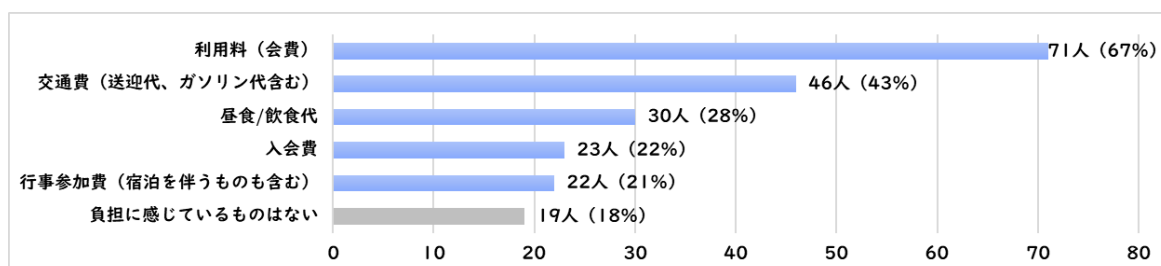


設問13-5: その他費用

- ・ その他費用は、一部施設での施設利用料(年額50,000円程度)、保険費用(年間数千円)、「教材費」、「指定の消耗品/備品等(靴、GPS、PC等)」等。
- ・ フリースクールと併設する施設(塾等)の費用が別途数千円発生するケースが複数あった。

設問14:フリースクールの利用に係る費用について、特に金銭的に負担を感じている費用を選択してください（複数選択可）（N=106）

- ・ 負担感をもっとも感じているのは「利用料（会費）」で、続けて「交通費（送迎代、ガソリン代含む）」。（※他の科目については施設毎に存在の有無が異なるため、単純な量の比較は留意が必要）
- ・ その他は「施設設備費」「併設する塾や子ども食堂の費用」「時間外利用の費用」等が存在した。



設問15:経済的負担に関するエピソード

1. 【就労制限・収入減】送迎や付き添いによる仕事への影響（18件）

- ・ 送り迎えやいつ帰ってくるかわからないので働けない。
- ・ 上の子が不登園&小1から不登校になったため、決まっていた正社員の仕事を辞めた。下の子ども幼稚園は半年で退園し小1からずっと不登校。子どもが成長したので今はパートをしているが、やはり正社員で働くのは難しい。時々中学に部活だけ顔を出す上の子ども、月に数回居場所に行く下の子ども、車での送迎が必須なので、親の働き方がある程度融通が効く職場でないと難しいこと、そのため経済的に厳しい。また、本人たちが居場所に行きたい日に親2人共仕事で送迎できない、という状態もある。
- ・ 生活全てに費用がかかるが、仕事はできない、支援は何もない。通学定期も使えない。
- ・ 不登校になったすぐの時は、家庭で過ごすことが多いので、お昼ご飯などの心配や、お留守番の心配から仕事を減らしてもらった。収入が減るのに、学校の引き落としはすぐには止められず、プラスで利用代の出費があると、精神的につらい。
- ・ 公立高校よりも手厚く指導頂き嬉しい反面、経済的に負担が多い。帰りも遅く、親の負担が経済面でも精神面でもやや多くなった。転職したいが、辞められずに苦しむことがある。
- ・ 仕事は減ったが支出が増えたことが悩み。
- ・ 仕事の調整が必要、思うように働けない。
- ・ 子供の対応の為に転職をし、その後フリースクールへ行くことが決まったが、転職により母親の給料が減ってしまった。
- ・ 毎日家に閉じこもりがちだったので一歩外に出てフリースクールという居場所はとて有難いが、週1の4時間とはいえ結構な料金がかかる事や送迎をする為に仕事を休まなければならない事にとて家計の負担を感じている。尚且つ母子家庭なのでとても厳しいのが現状。

- ・ 開始時間がもう少し早いとありがたい。子どもに付き添いが必要で、日中働くことができない。兄弟で利用しているので家計の負担を減らすべく私も稼ぎたいと思っているが、なかなか難しい。
- ・ フリースクールを探したり、その日によって行けたり行けなかったり、姉の様子を見て妹も自由を選んだり、フリースクール以外の通院や放デー通所などで、日中なるべく子どもに合わせられるよう夜だけ働いていたが、精神的にも身体的にも辛くなり、退職することにした。別の仕事で収入を得たいけれど、どんな風に働けるのか本当にわからない。支出を減らしたいから引っ越し話をして、夫が無理解すぎて話にならない。
- ・ 自身が転職し、仕事の量を減らしているなか、不登校になる前にはなかった経済的負担が生じているため、余計に負担が大きく感じている。しかし今年度から市町村より補助をして頂きありがたい。
- ・ 送迎がメインになり、働ける条件が限られてしまう。しかしフリースクールや昼食代がかかり働かざるをえない。無理がたたり、10日ほど寝込んだが、自分がダメになると子どもたちがフリースクールにすら通えない場合が出てくる。
- ・ 金額以外に、送迎に多大な負担を感じている。送り迎えは、1往復で45kmかかる。住むエリアのガソリン代は1Lで198円。一日のガソリン代は1000円以上。(中略)私も、家計を守る為に働いている。現状、家計を守る為というよりも、フリースクールに通わせる為に稼いでいる感じ。(中略)せめて、通学の補助がほしい。送迎を誰かしてほしい。(中略)せめて、時短勤務ワーカーの月収の2割くらいの負担になるように、というか、教育費無料化している現状なので、出来たら小学校と同じように通えるように。入学金は仕方ないにしても、食費や交通費分、月謝については全額補助を出して欲しいと強く望む。
- ・ フリースクールの利用時間に合わせて送迎(学区外や通学路以外なので必要)をする為、そこに合わせた勤務時間や、働き方になる。また、親子参加の行事もある為、時短勤務や早退をしている。うちの場合はひとり親なので、勤務時間が短く収入も減ると、フリースクールの月謝だけでなく、生活自体が大変になってくる。
- ・ もともと家計の余裕はなかったが、長男が不登校になり、続けて次男も入学後すぐに不登校になり、仕事をやめた。10万円あったパート代がなくなった。現在は、在宅事務で4万円ほどの収入があるが、夫婦の収入以上に出費があり、赤字家計。現在は、子供がフリースクールに行かなくなったが、2人ともほぼコンスタントに通えていたときは、7万円ほどの出費と、ガソリン代。送迎の往復40分程度がとても負担だった。第三子も来年入学するが、保育園時点で登園渋りがあり、フリースクールを利用することになると、更に家計がピンチ。
- ・ 小学校低学年の頃は、不登校(フリースクールへの通学)に伴い、勤務時間がフルタイムから5時間勤務へ変化したため収入が減り苦勞した。
- ・ 場所に慣れるまで、保護者の同伴が必要なので、その時間は仕事ができず、収入が減るだけでなく、職場の理解を得なくてはいけない。
- ・ 送迎があるので、仕事がしっかりできないので、収入が少ない。

2. 【二重負担・費用の重さ】学校納付金との重複・利用料の負担(12件)

- ・ 学校に戻った時のことを考えると、学校にも払わなくていけないものが多く、二重の負担になる。
- ・ 小学校に通っていた時にはかからない費用が色々とかかる。一度の金額は高くなくても、毎日通うとなると負担が大きい。またフリースクールのスタッフの方はほとんどボランティアで無償に近い中、子どもたちのために居場所を提供し、たくさんの良い経験をさせてくださっている。
- ・ 学校に行かない分の昼食代などの負担は大きい。利用料が値上がりしたこと、学校への教材費や給食費の支払いもあり、二重に負担。
- ・ もう少し費用が安いとありがたいが、安心して過ごせる場所があることに感謝。
- ・ 週3→週5日通わせるように変更すると更に月謝が5,000円上がる。その捻出に、いよいよ学校給食を停止してもらった。これにより、逆に完全に学校へ行く流れを断つ結果になった。
- ・ お泊まりのイベント2泊3日で五万円はとてもしゃないけど行かせられない。
- ・ 同居する家族の理解が無いと、学校以外の場所で活動に参加し、子どものやりたい!動きたい気持ちを支えようとするとムダ使いと言われ、自身も働けない状況に有り、参加させてあげる事にストップをかけてしまったり、間に挟まれ沢山イヤな悲しい思いをしてきた。子どもの身体状況により参加するのに、親の付き添いがいると親は参加費があるので、毎回行きたいが、金額がかさむ。子どもも気にする事が有った。
- ・ 利用料がそれなりにするので補助がもっと出ると良いと感じる。
- ・ フリースクールの利用料を払うために家計を切り詰めている。
- ・ 毎回料金がかかる。スタッフは皆さんが忙しそうなので子どもについてゆっくり話ができない。
- ・ 今は無料で通っているが、週一回半日しかやっていないため、今後有料のフリースクール等が見つかったら、送迎できるのか、有料になれば捻出できるのか不安。

3. 【制度の不備・格差】自治体間格差・所得制限・対象外(9件)

- ・ 昨年何回も市町村にお願いしているが、フリースクールの費用の助成がない。きっかりのサイトも見せて、これだけの自治体で助成金があると示しているが変わらない。自治体により助成のある無しが異なるのが辛い。住んでいる市町村は近くにフリースクールが無いので交通費もかかる。また、フリースクールのお陰で勉強をしようという気持ちが出てきたが、学校には行かれないため本人がフリースクール併設の塾を希望し、その塾代もかかる。また、完全不登校なので学校の行事も予め不参加にしているにも関わらず、校外学習のバス代の費用を請求された。決まりだからの一点張り。学校とフリースクール両方に費用がかかる。送迎やサポートの負担もあり、仕事を減らしているのできつい。
- ・ 子どもが中学生の頃に通っていたフリースクールでは、月額10万円、長期休みごとに8万円の講習費用(年4回)、さらに旅行費15万円と、多額の負担が必要だった。1人親家庭であっても収入が基準をわずかに超えると手当が打ち切られ、実際には2人親家庭と同様の条件で費用を背負うことになる。手当の基準額が低すぎるため、現実の負

担感と制度の間に大きな乖離があると感じている。(中略)特に一人親家庭の場合、子どもが不登校になったとしても、自分が大黒柱であるため、フリースクールの費用をまかなうためにさらに仕事を増やさざるを得ない。すべての手当が打ち切られ、その結果、子どもと過ごす時間が減ってしまうという矛盾を抱えている。(中略)また、高校については、通信高校だけでは学力や知能レベルの高い子どもに十分な学習支援を提供できないこともあり、多くの家庭は「サポート校」に通わせざるを得ない。しかし、そこには数100万円単位でさらに大きな費用がかかる。

- ・ フリースクールは裕福な家庭の子供が行く場所ではないし、遊んでいるだけの場所でもない。親として、子供たちが幸せに暮らしていける為に出来ることをした結果が今のフリースクールに通うことになった。お金があるとかないとかで通わせるか通わせないかを考えることではない。ウチは経済的に裕福ではないし、子供が4人いて、そういう面ではとても厳しい。しかし世間は公立学校に行かない家は変わっているし、余裕があるんだと勘違いされてる。むしろ子供達に真剣に向き合っている家庭に支援がないのはおかしい。そこに日本の未来があるのに。経済的に苦しい事が、子供=負担 となっている事自体間違っている。いままで勉強しか教えてこなかった日本の教育がこういうところにも露呈しているのではないかと思う。行政は何に投資すべきなのか?しっかり考えて欲しい。補助ではない。投資と思って欲しい。
- ・ 自宅の位置や、市町村内に子どもたちに合った施設が利用したい日に開所していない等の理由により、必然的に県外施設も利用している。しかし住んでいる自治体からの利用者への金銭的な補助は、県内施設(信州型フリースクール認証制度の認証を受けた施設)の、しかも、交通費しか対象にならない。ぜひ県外施設も対象にし、利用料についても補助の対象にして欲しい。(中略)利用料については、県から家庭に対して直接補助へ向けて動いてほしい。正直なところ、今のままでは生活が続けられない。毎月赤字でカツカツ。自治体の動きは遅い。認証を受けた各施設にはお金が降りているのかも知れないが、利用料はどこも値上げの一途をたどっているが、家庭にはなんの補助もないため益々負担が大きくなるのしかかっている。昼食は施設側で出して欲しい。(中略)学校へ相談したところ、校長の認識が未だ昭和平成のままだった(プリント学習など、何かしらの成果物で認定する事しか知らない)。いわゆる机に向かって行うお勉強ではなく、子どもの興味関心に沿った活動が中心となるフリースクールも多く存在する中、学校側の出席認定に関するアップデートが必要だと改めて感じた。(中略)中間支援施設について、利用方法がもっとフラットになってほしい。
- ・ ただの自由なフリースクールとは違い、しっかりと学習を行なっている学校なので、私立学校扱いにしてもらいたい。
- ・ 市町村によって支援の仕組みが違い、私の住む市町村では支援の対象外になった事案があった。
- ・ 市町村からの支援がない。支援の対象が利用料に限ったものでは足りない。
- ・ 市町村の補助が半分しかないため、育休中で収入がない現状では、利用料と交通費の支払いが負担になっている。
- ・ 隣の市町村から通っているため、市町村内在住であれば助成金があるがないので費用負担が大きい。諸経費や送迎費用、仕事をしているため送迎時間も含め負担があり、なる

べく学校に行くようにさせてしまっている現状がある。

4. 【利用の断念・抑制】経済的理由による機会損失(8件)

- ・ 気になったフリースクール等があったが経済的に難しく、距離も遠くて、資料を見て利用を諦めた所が何カ所もある。経済的な負担の大きさもあり、子どもが学校を嫌がっていた時も学校に行くよう強く叱咤し、子どもが泣いていたことがある。行事参加も興味はあるが、費用がかかるため、気軽に参加させられない。
- ・ 高額なフリースクールには通えないので、選択肢が限られてしまう。
- ・ 収支が厳しい時は諦めることも検討していた。
- ・ 1回の利用料が高いので何日も通わせるのを躊躇してしまうし、利用頻度を調整してしまう。
- ・ フリースクールにて勉強を教えて頂けるので利用したいと思っているが、利用料が高いため利用を断念してしまう。我が家は子供が複数人いて、それぞれにお金がかかる。更にこの物価高で経済的に辛い。
- ・ 子供が学校システムに合わず、自分のペースで通える場所と思いフリースクールを選択したが、経済的負担や不安から夫婦間で口論が増えた。
- ・ 経済的負担が大きく退会を本気で考えたことが家庭内で何度かありホームスクールへの移行なども検討したことがあった。やりたいことがあったが負担のために諦めなければいけないこともあった。
- ・ 単発利用代を節約するために、子どもがフリースクールへ行く回数を週1回に抑えている。

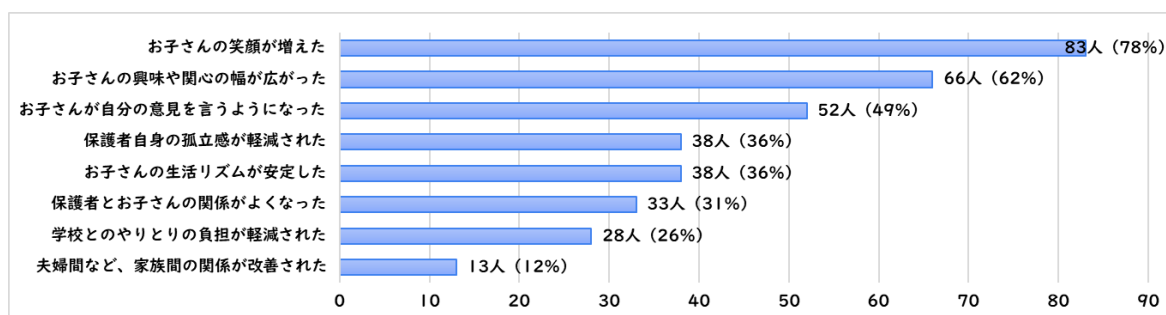
5. 【付帯コスト】交通費・食費の負担(3件)

- ・ バス等の公共交通機関が不便なため、タクシー。
- ・ 学校に行く場合に給食が食べられないのもさみしいと思い、給食費を払い続けたが、年に数回しか利用しなかった。子どもの合うフリースクールが往復1時間かかる。ガソリン代も送迎時間も大変だが、送迎できない場合は電車と乗り合いタクシーを使うと2人で1回につき2000円ほどかかる。
- ・ 昨年度までは市町村のフリースクール補助金がなかったため満額負担であったり、ファミサポの小学生の補助がなかったので金銭的負担が大きかった。今年度から利用料と交通費の半額補助は始まったが、毎日の往復の送迎費が月単位となると負担が大きい。昼食も子ども食堂との提携で比較的負担が少なくとてもありがたいが、昼食がない日や家で過ごす日の弁当が大変。自治体の昼食補助や給食センターの開放等、今後昼食の選択肢や支援もあると大変ありがたいと思う。

(4) フリースクール利用による効果

設問16: 現在利用しているフリースクールを利用することによって生じた良い変化について、ご自身が感じられているものがあれば選択ください(複数選択可)(N=106)

- ・ 98% (104名) がなんらかの良い変化があったと回答。
- ・ 最も多かったのが「子どもの笑顔が増えた」(78%)、続いて「子どもの興味関心が広がった」(62%)。
- ・ また、保護者への良い影響についても、56% (58名) が「保護者に対して、なんらかの良い変化があった」と回答があった。(以下のいずれかを選択: 保護者自身の孤立感が軽減された/学校とのやりとりの負担が軽減された/保護者とお子さんの関係がよくなった/夫婦間など、家族間の関係が改善された)



設問17: 現在利用しているフリースクールを利用することによって生じた良い変化について具体的なエピソードがあれば教えてください。(N=106, 23名回答)

【情緒的改善】

- ・ 学校に行っていた時はとにかく毎日機嫌が悪くて、これも無理、これもいや、いやなことだらけで暗かった。フリースクールに行くようになり、半年ぐらすると、学校の呪縛からだいぶ抜け出して、穏やかになってきた。そして、徐々に徐々に友達ができたり、先生との信頼関係ができたりして、活発になり、保育園や学校では絶対に楽しめなかった様々な活動に参加できるようになってきた。
- ・ 完全に不登校になってから数ヶ月自宅に引きこもっていたがフリースクールに行けるようになって、家から出られるようになった。
- ・ 普段、あまり自分の気持ちを言語化しない息子。つい先日不登校について親子で話していた時、「不登校になって幸せ。学校に行っている時はずっとイライラしていた。今は毎日楽しい所に自分で選んで行けるからうれしい」と自分の今の想いを伝えてくれた。
- ・ 小学校へ行けない自分をダメな自分だと受け入れられなかったけど、フリースクールという自分の場所が出来てそういう話をしなくなった。

【学校連携】

- ・ フリースクールの様子を先生が見に来てくれたおかげで、学校でも対応の仕方の参考にしてくれた。

- ・ 出席認定について、施設側が直接交渉に伺ってくださったことにより、活動メインの民間施設を利用する児童の出席認定について、全く前例がなかった学校の対応が動き出した。

【社会性発達】

- ・ 他のお子さん達との交流の時間もあり、他人と関わる事が苦手だったが、学校でもお友達に話しかけやすくなったと思う。

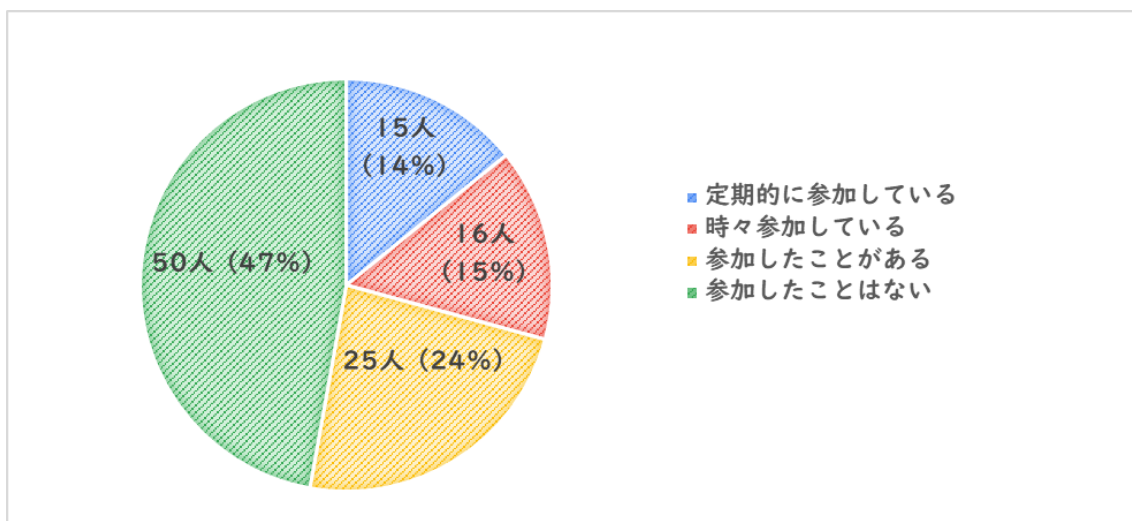
【家族関係】

- ・ 当初は泣く子供を保健室へ引っ張って連れて行っていたので、正直母子共に辛かった。
（中略）子供の学校へ行きたくない気持ちを家族が受け入れることができ、それからは、親の一方的な行動は減らされた。
- ・ フリースクールという選択肢が1つあるだけで、心持ちが楽になり、親自身が安心な気持ちの中、子どもと向き合い声掛けできるようになった。
- ・ 子どもの状態が良くなることで、夫の不登校への対応が改善していった。

(5) 親の会への参加状況等

設問18:親の会(保護者会・家族会を含む)への参加状況をお聞かせください。(N=106)

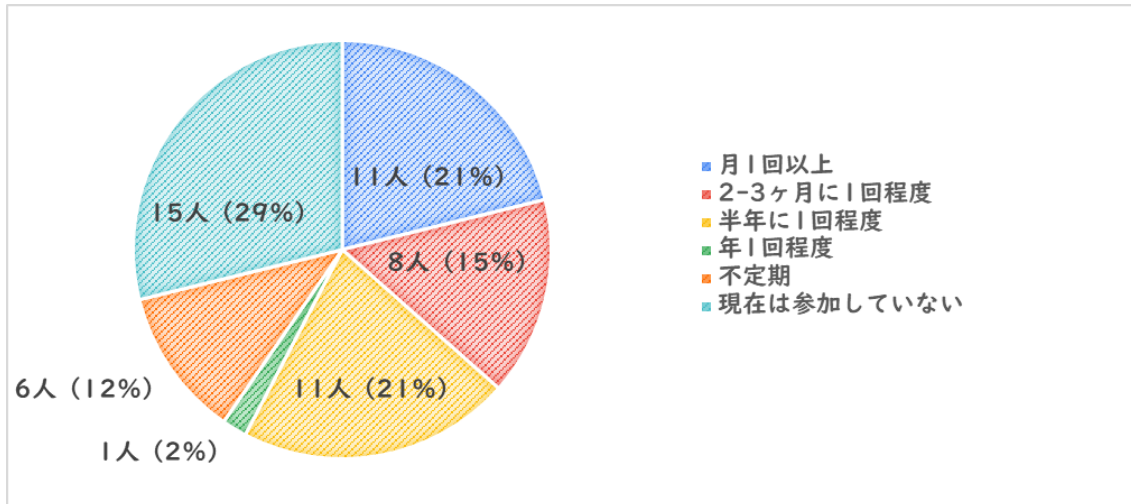
- ・ 継続的に参加している保護者は29%。参加したことがあるは24%。参加経験がないは47%。



【親の会の参加者：親の会の参加及び活用について】

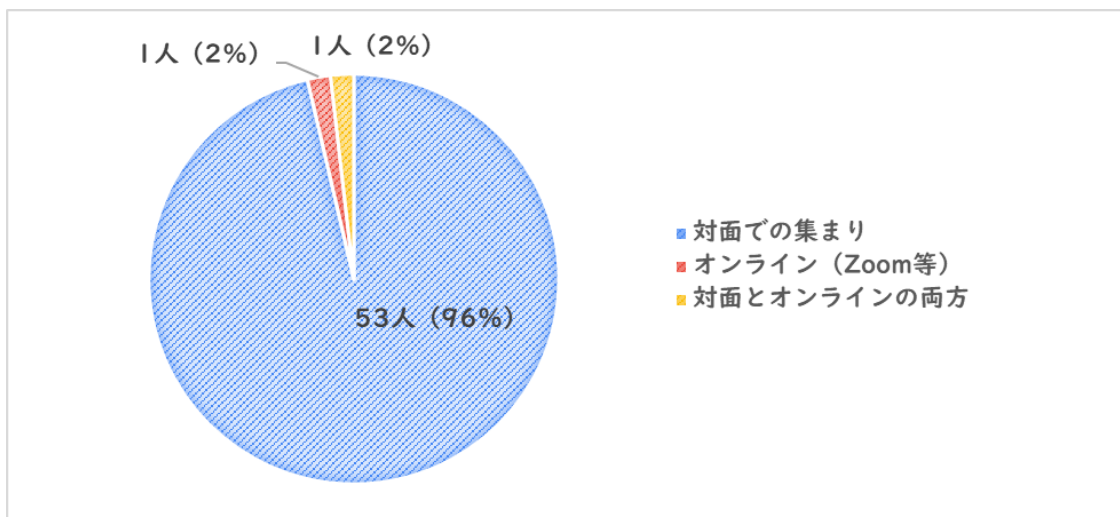
設問19：親の会参加頻度はどの程度ですか？(N=52)

- 参加頻度は回答者によりまちまち、月1回以上が21%の一方で、過去参加したがもう参加していない(29%)、不定期参加(12%)。



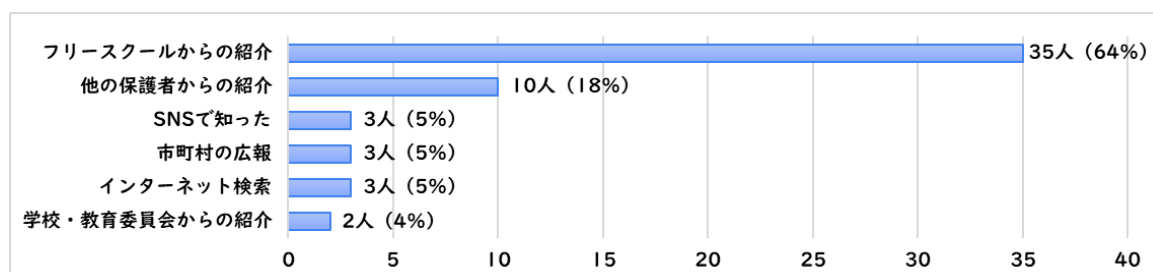
設問20：親の会への主な参加方法は何ですか？(N=55)

- 参加方法は、対面が96%、オンラインが2%、対面とオンラインの両方が2%。



設問21:親の会の参加のきっかけは何でしたか?(複数選択可)(N=55)

- 参加のきっかけで最も多かったのは「フリースクールからの紹介」(35件)、続いて「他の保護者からの紹介」(10件)。それ以外の回答についてはわずかに留まり、Webやその他の広報での成果は現状では限定的となっている。
- その他(自由記述)、「自分で立ち上げた」という回答が2件あった。



設問22:参加している/参加したことがある親の会の名称と所在する市町村名を差し支えなければ教えてください(参加している親の会が複数ある場合は、すべての施設名をご記入ください。)(N=23)

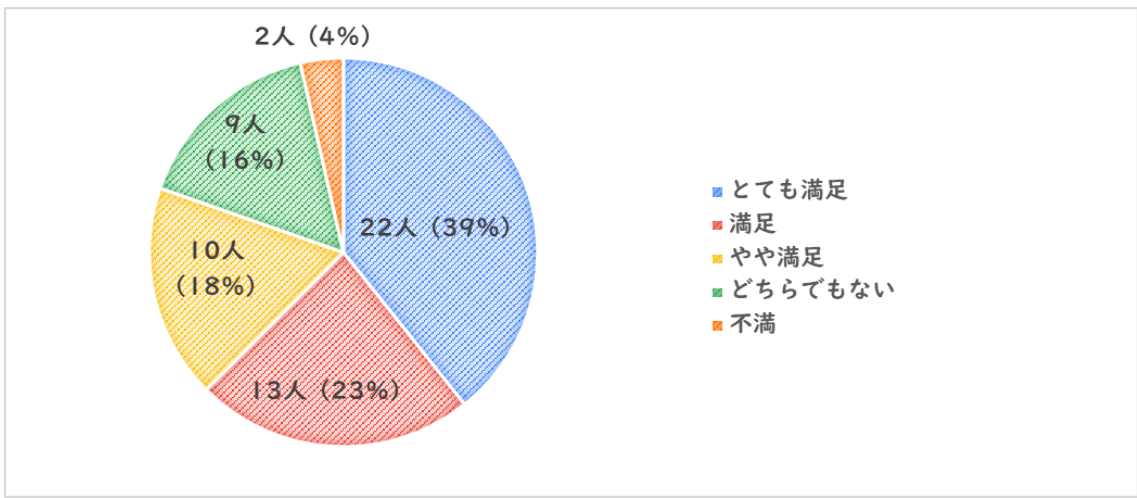
- 24か所の親の会参加者42名から回答があった。名称不明が4か所あり。
- 2箇所への参加者が3名、3箇所への参加者が3名。

市町村	施設名	回答数	市町村	施設名	回答数
長野市	a施設	3	駒ヶ根市	m施設	2
	b施設	1		n施設	2
	c施設	1		o施設	2
	d施設	1	茅野市	p施設	1
	e施設	1	千曲市	q施設	7
松本市	f施設	3	安曇野市	r施設	1
上田市	g施設	1	下諏訪町	s施設	1
諏訪市	h施設	2	富士見町	t施設	1
	i施設	1		u施設	1
須坂市	j施設	2	箕輪町	v施設	1
小諸市	k施設	1	中川村	w施設	1
伊那市	l施設	3	飯綱町	x施設	2

※個人・団体の特定を避けるため、親の会名は記載していない。

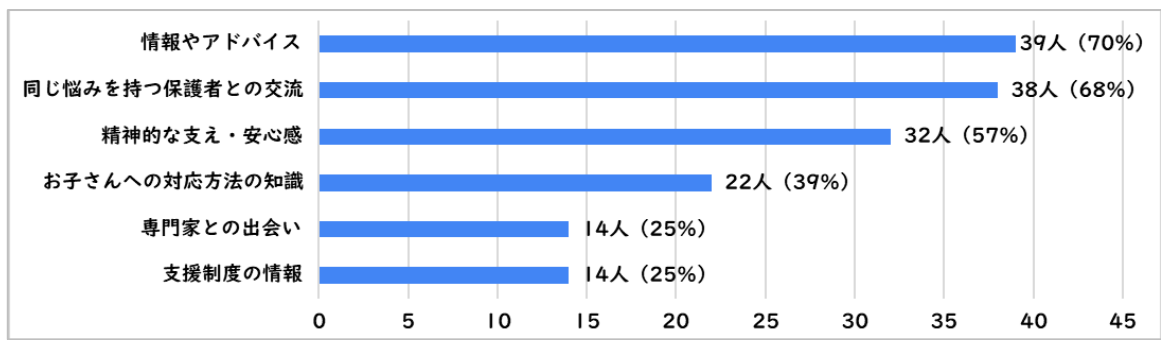
設問23:親の会への参加について、満足度を教えてください。(N=56)

- ・ 親の会の満足度は回答により開きがあり、「とても満足」が39%の一方で、「どちらでもない」「不満」が20%。



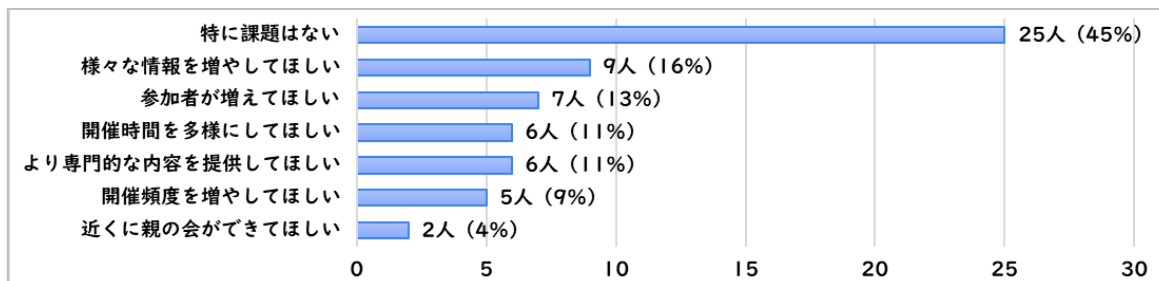
設問24:親の会への参加で得られたことは何ですか？(複数選択可)(N=56)

- ・ 親の会への参加で得られたことは、「情報やアドバイス」(70%)、「同じ悩みを持つ保護者との交流」(68%)が多くあった。
- ・ 「精神的な支え・安心感」(57%)、「子どもへの対応方法の知識」(39%)、「専門家との出会い」(25%)、「支援制度の情報」(25%)。



設問25:親の会に望むことは何ですか？(複数選択可) (N=56)

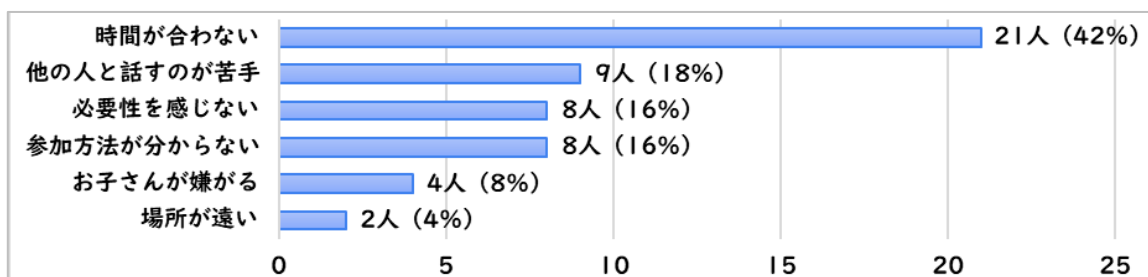
- ・ 「特に課題はない」は半数近く(45%)の回答があった。
- ・ 「様々な情報を増やしてほしい」(16%)、「参加者が増えてほしい」(13%)など異なるニーズを望む保護者もいた。



【親の会の不参加者:その背景について】

設問26:参加していない理由は何ですか？(複数選択可) (N=50)

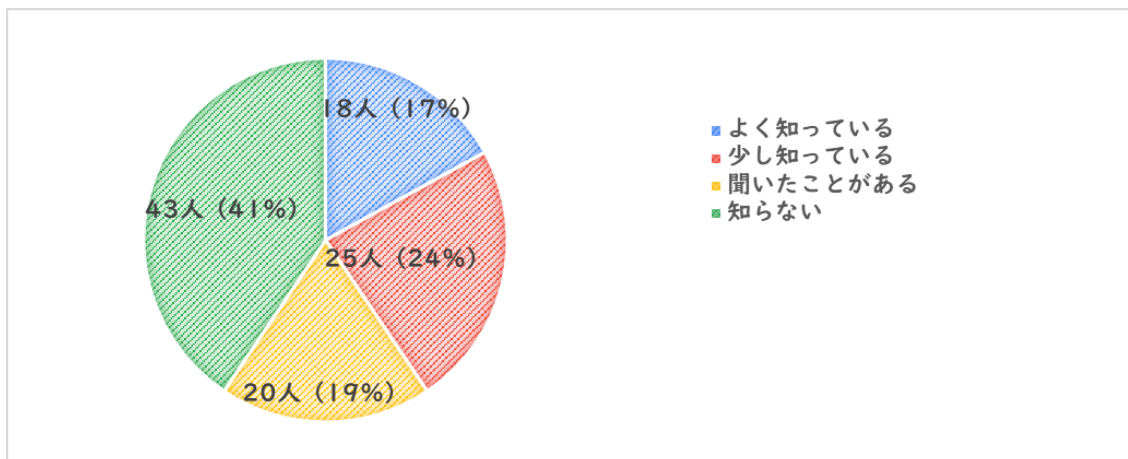
- ・ 不参加の理由の42%が「時間が合わない」。その他選択肢にないものとして「開催されていることを知らない」といった主旨のコメントも6件あった。



(6) 長野県等による支援制度の認知及び活用状況

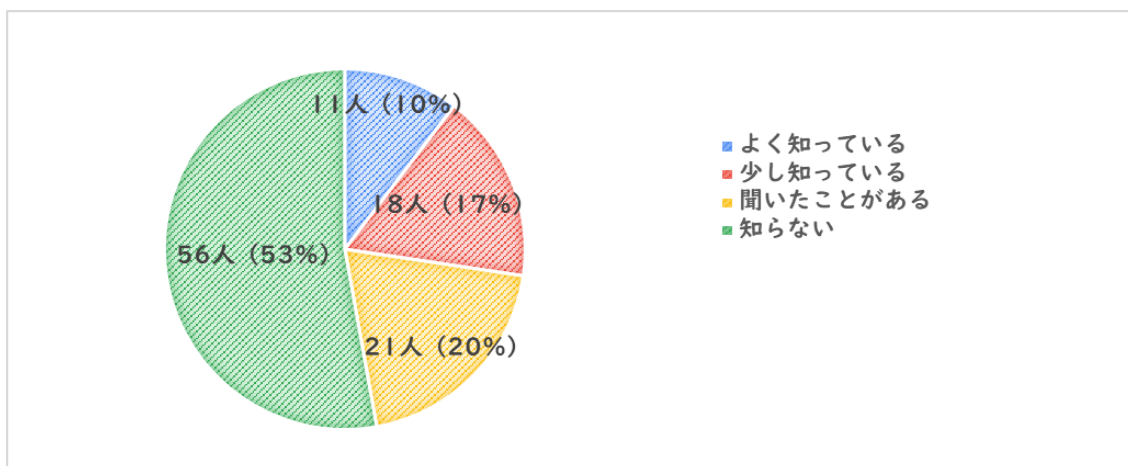
設問27: 令和6年4月に長野県が創設した、「信州型フリースクール認証制度」を知っていますか？
(N=106)

- ・ 「知らない」は全体の41%。



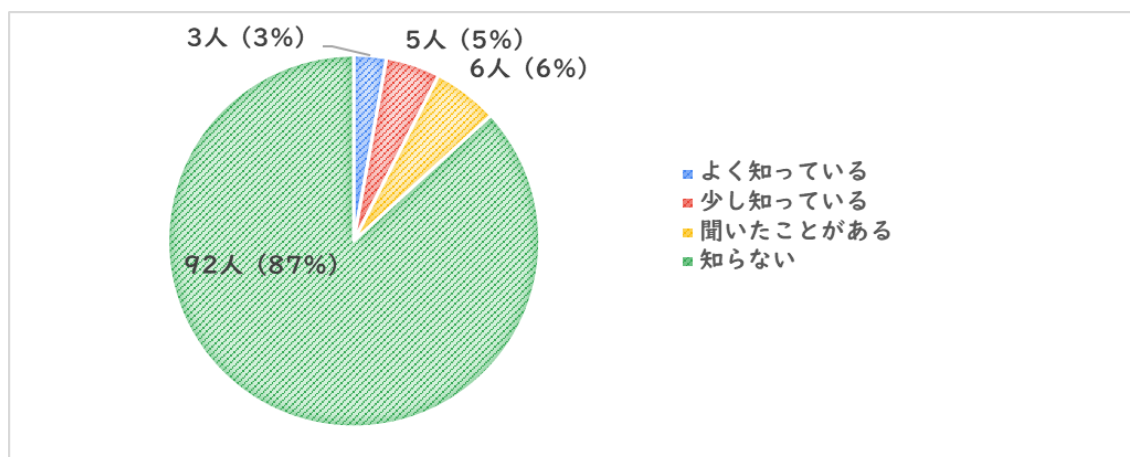
設問28: 令和7年3月に長野県が公開した、「長野県フリースクール等情報ポータルサイト(愛称:kikka☆link〜きっか・リン〜)」を知っていますか？(N=106)

- ・ 「知らない」は全体の53%。



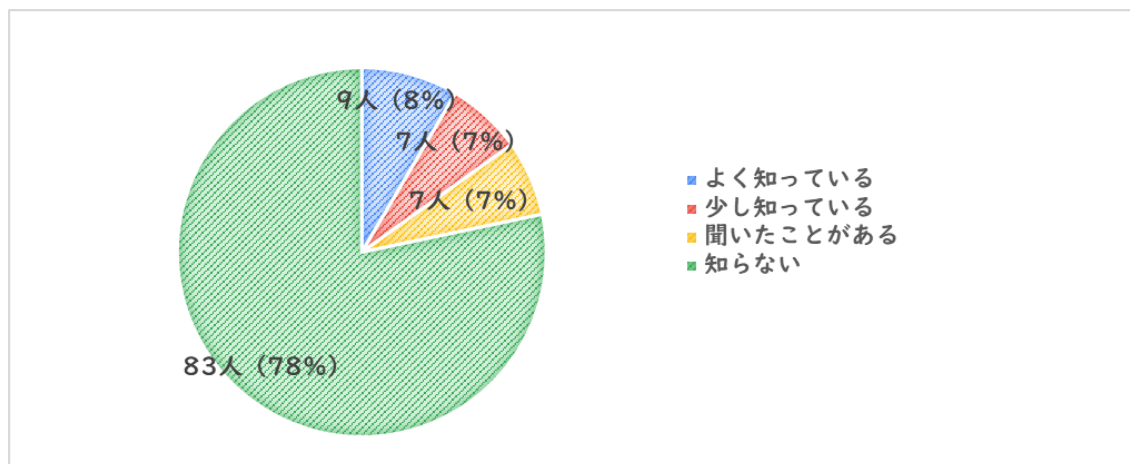
設問29:長野県教育委員会が作成した、「はばたき～不登校児童生徒の学びのサポートガイド～」を知っていますか？(N=106)

・ 「知らない」は全体の87%。



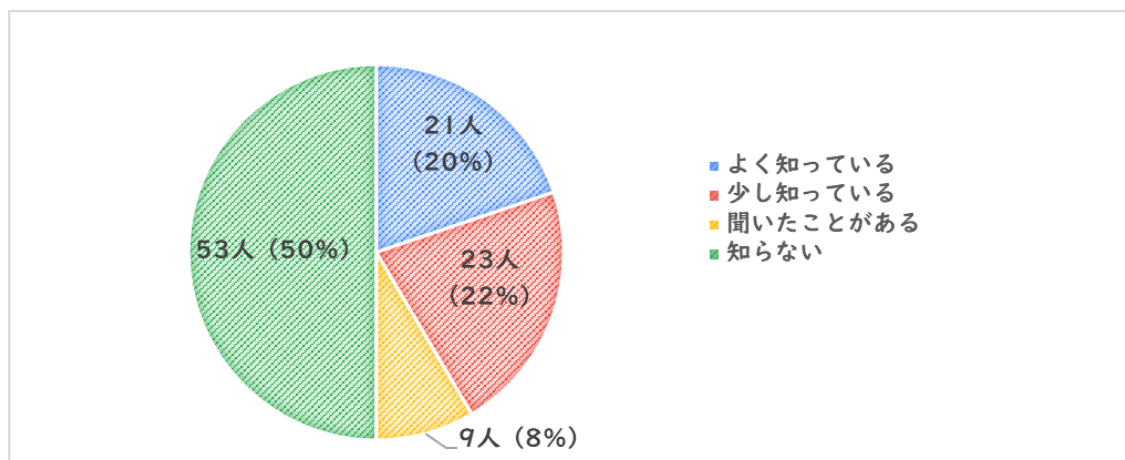
設問30:長野県教育委員会が作成した、「子ども・保護者と学校・市町村を結ぶきっかけづくりのためのコミュニケーションシート」を知っていますか？(N=106)

・ 「知らない」は全体の78%。



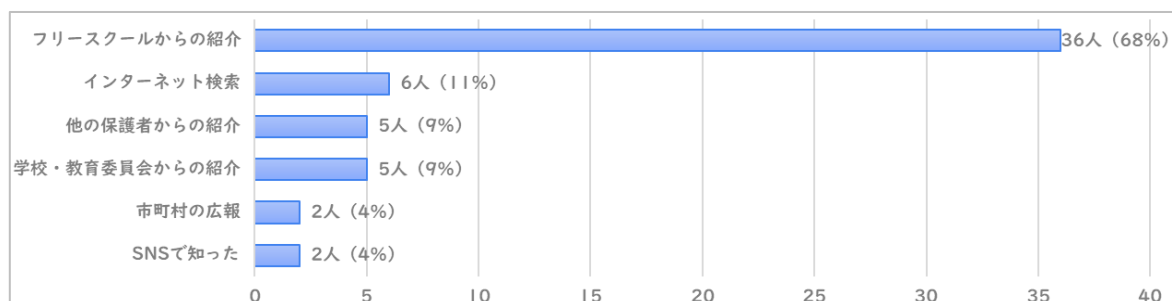
設問31：県内市町村におけるフリースクールの利用者支援制度（家庭への補助金など）を知っていますか？（N=106）

- ・ 「知らない」は全体の50%。



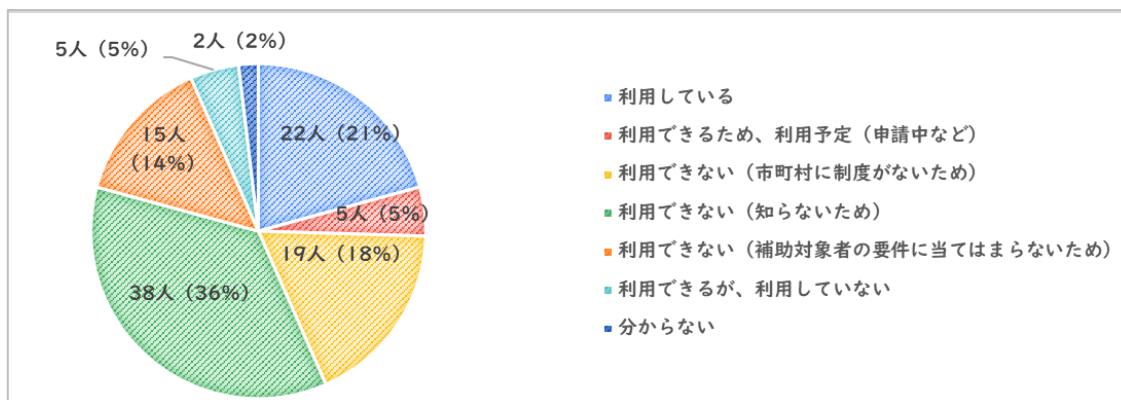
設問32：制度を知ったきっかけは何でしたか？（複数選択可）（N=53）

- ・ 制度を知ったきっかけの68%が「フリースクールからの紹介」。他のきっかけは「インターネット検索」、「他の保護者からの紹介」や「学校・教育委員会からの紹介」など。



設問33:お住まいの市町村におけるフリースクールの利用者支援制度(家庭への補助金など)のご自身の利用状況を選択してください。(N=106)

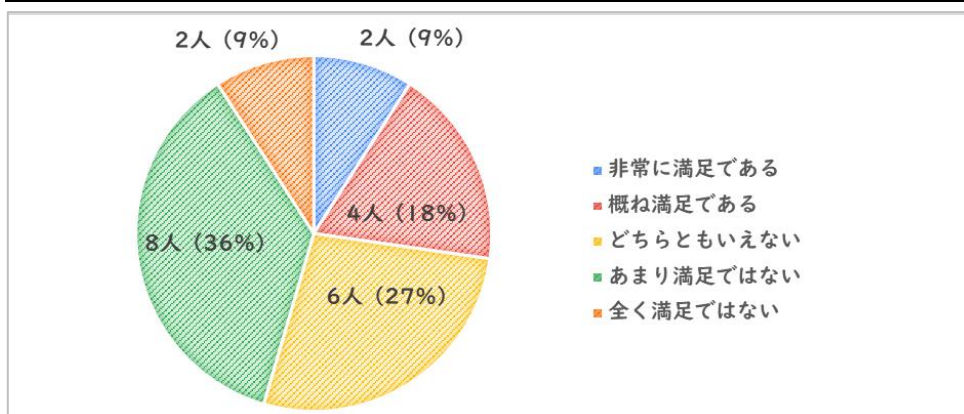
- ・ 利用もしくは利用を準備している家庭は全体の26%、利用していない家庭が73%。
- ・ 利用できない家庭のうち約半数(全体の36%)が「知らない」と回答しており、認知に課題。続けて「市町村に制度がない」が18%、市町村間の格差も要因と伺える。



【制度利用者の既存利用料補助制度に対する満足度について】

設問34:お住まいの市町村におけるフリースクールの利用者支援制度(家庭への補助金など)について、ご自身の感覚に近いものを選択してください(N=22)

- ・ 制度利用者の「非常に満足」「概ね満足」の回答は27%。
- ・ 満足度が低い背景として「額の不足」(8件)「手続きが煩雑であること」(4件)等の回答があった。同様に、利用していない理由に、金額面や手続きの煩雑さに関する回答があった。
- ・ その他、「補助範囲(一部分の項目しか補助されず、交通費や飲食代、行事参加費は全額負担のまま)」「切り捨て単位が100円」「学期毎の申請なので交通費等の記録が大変」などの回答があった。



【制度を利用していない方の認識について】

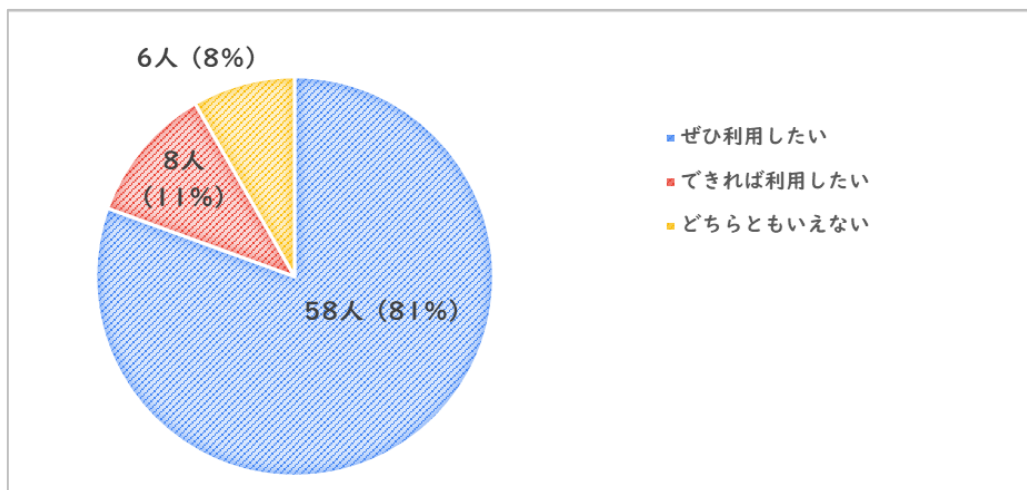
設問35:お住まいの市町村におけるフリースクールの利用者支援制度(家庭への補助金など)について、利用していない理由について教えてください(N=4)

- ・ フリースクールの利用頻度が少ない。
- ・ 申請手続き、制度が複雑である。
- ・ 利用手続き自体は進めている最中だか、書類が煩雑でくじけそう。
- ・ 申請をはじめるところである。

【フリースクール利用者支援制度へのニーズについて】

設問36:利用できるフリースクール利用者支援制度(家庭への補助金など)があれば、利用したいと思いませんか?(N=72)

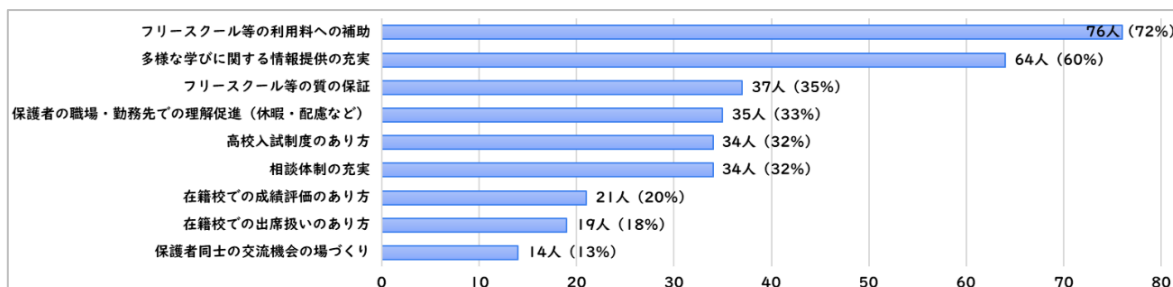
- ・ 「ぜひ利用したい」「できれば利用したい」の回答が92%。利用料補助に関する強いニーズがあることが伺える。



(7) 行政に対するご意見等

設問37: 今後、行政で検討すべき政策を3つまで選んでください。(N=106)

- ・ 検討を求める政策として、「利用料への補助」(72%)、「情報提供の充実」(60%)が多く挙げられた。
- ・ 学校等の連携等に対するニーズ、職場の理解促進といった、組織を越える理解醸成を求める声も複数あった。



設問38: その他、行政の制度や施策に関して自由にご記載ください。(今後期待すること、評価している点など)(N=59)

- ・ 経済的支援(21件)、市町村間の格差是正(7件)、フリースクールへの運営支援の充実(16件)などへの期待を中心に、多くのコメントがあった。
- ・ 既存の取り組みへの感謝や成果に関するコメントも複数確認され、徐々に環境整備が進んでいることが伺える。

(コメント詳細)

1. 経済的支援の拡充・負担軽減(利用料・交通費・所得制限撤廃など)(21件)

- ・ 住んでいる場所に関係なく補助してほしい。
- ・ 公教育である学校が、もっと様々なお子さんに対応できるようになってほしいが、それはだいぶ難しいかなと感じている。だとしたら、いろんなタイプのお子さんが、自由に気軽に選べる選択肢を増やしてほしいし、そのためにはいろんなタイプのフリースクールが増えて、通いやすくなってほしいと思う。経済的な状況に左右されるのはあまりにも辛いので、公教育と同様に無料で通えるようにしてほしいし、保護者の負担が減るように送迎とかもあった方がいいし、フリースクールが安定して経営できるようにフリースクール自体への補助金も必要だと思う。そして、学校にいかない選択肢への偏見を減らすような啓発もお願いしたい。
- ・ 親の負担を減らしてほしい。学校に通っている子と同じ扱いをしてほしい。居場所を増やしてほしい。行政や市町村がきちんと動いてほしい。
- ・ 経済支援が必要。不登校の子は在籍校に学費を支払いながら家庭で過ごす子が多いので、低学年のお子さんの親は(在宅ワークの方は良いけど)外へ働きに出ることが難しい。正社員は難しく家計は厳しい。学費のことも教育委員会と検討を重ねて欲しい。なぜ通っていないのに払わないといけないか?毎月負担が大きい。パートに出ているも家に子どもが

いるので、いろいろ心配だし、お昼ご飯も作り置きしている。特に子どもの精神状態が不安定な日は、留守番させること自体できない日もある。職場に連れて行けるなど社会的な理解が必要かもしれない。

- ・ 学校と同程度の利用料で使えると良いなあと思う。フリースクールは学び場としてはなかなか難しいと思うので、学ぶ場所をなんとか出来たらと思う。
- ・ とにかく、経済的支援。
- ・ 経済的負担をなくし、どんな人でも利用できる体制にしてほしい。フリースクールと学校の相互理解、歩み寄りがより一層強化されるよう願っている。車がなくても通える方法があると有り難い。
- ・ フリースクール利用料助成を受けられる対象資格が厳しく（就学援助を受けている等）、助成を受けられない。子が学校に合わなくて、経済的にやや厳しい家庭は結局持ち出しが増えてしまう事が負担。対象資格を見直して欲しい。
- ・ フリースクールに行くための交通費や保護者の収入補助などを支援してほしい。
- ・ 年齢によるかもしれないが、子どもに割く時間が多いため、親がゆっくり過ごせる時間が少ない。経済的にも精神的にも負担を感じている。各家庭に経済的な支援をしていただけたら、ファミリーサポートを利用するなど何らかの方法で精神的な負担も軽減できていると思っている。
- ・ 多様な学びを保障し、子どもの可能性を広げるフリースクールについて、より一層学費の補助の面や、高等学校への接続の面での制度面で、助けていただきたい。
- ・ 利用料はやはり圧迫している。普通校と比べ支出は大きくなりがち。教育の平等の観点からも支援制度の整備を是非お願いしたい。
- ・ 補助を半額いただいても、月額 2 万以上はかかるのでもっと増やしていただけると助かる。
- ・ 補助金の支援はとても有り難く感謝してる。フリースクールの保護者の金銭負担は避けられないもの。その存在にどれだけ今助けられているか図りしれない状態である事を考えるとお支払いする事に何ら抵抗はない。しかし実際収入が減っている現状からその負担はやはり大きい事は事実で、金銭面での支援は本当に有り難く思う。
- ・ 補助金額の増額と振込までのスピードの速さを今後改善してもらえたら嬉しい。
- ・ フリースクールの利用料の補助を市町村任せだけでなく県、もしくは国から推進してほしい。
- ・ 通学支援、就学支援は現物でもいいし、額面での補助でもいいが、至急創設してほしい。
- ・ フリースクール利用家庭や、仕事が困難になった家庭は特に、経済的な支援を緊急にお願いしたい。学校が合わない子どもが不利益をこうしてしまうのは、とても悲しい。親の経済的不安や負担が、更に子どもを追い詰めてしまう可能性を重大なこととして扱ってほしい。緊急で十分な対応をお願いしたい。
- ・ 経済的な家計負担については、所得制限があり我が家は対象外だが、本来小学校に通っていればかからなかった負担がのしかかっている状況は所得の差とは因果関係はなく、ぜひ所得制限については撤廃して頂けることを願っている。また、さらに大きなテーマだが、義務教育課程へバウチャー制度導入されれば多様な学びの選択肢のなかで、自分らしく学び育てる子どもたちの環境が整うのではと思う。

- ・ 在住する市町村の補助は、1日上限500円、月額上限5,000円。とても足りない。毎日学校に行ければ給食費9,000円で済む所が、フリースクールにひと月通うと40,000円＋交通費＋食費、仕事の早退や遅刻によって給与が削られる状況でありながら、この負担額を払うために給与を沢山もらわないと通わせることさえままならないジレンマが生じる。一時期子供全員不登校不登園になった時があり、このままだと経済的にも家庭が崩壊するとぞっとした覚えがある。不登校は学校に行くことを怠けているのではなく、行かないという意味表示を明確に出せているだけだと思う。フリースクールを特別な居場所ではなく学校と同じ位置付けにしてほしい。
- ・ 助成金を所得制限なく市町村をまたいでも受けられるようにしてほしい。

2. 自治体間の格差是正・情報提供・行政対応(7件)

- ・ 県の取り組みや情報は充実されていて本当にありがたいが、自治体により不登校への対応の違いが大き過ぎて悲しくなる。うちの市町村は不登校に関する情報をネット上にまとめたページすらない。他の市町村のページを例に上げて、作ってもらうようお願いしているが進まない。そのため不登校支援の内容が平等に皆に行き渡らない。先生やスクールカウンセラーから小出しにされて振り回された。フリースクールの情報もゼロ。もっと早く知っていたら子を追い詰めず抑うつ状態にまで追い込む事もなかったと悔やまれる。もっと早く学校以外に目を向ければ良かった。一度抑うつ状態になると回復に時間がかかってしまうので。住んでいる市町村はフリースクールの助成もなく、お願いしても市町村からの回答は近隣の自治体の状況を見て考えるとの事。隣の市町村は学びの多様化学校ができる予定であり、校内フリースクールも進んでいる。家を建てていなかったら他の市町村に引っ越したいくらいの気持ちがある。これら悩んで市町村の対応を待っていても、結局もう義務教育期間が終わってしまう。県からも自治体に指導をしてほしい。
- ・ 県で行っている施策などについて、市町村や学校現場に降りてきたときの温度差が激しい。その溝を埋めるためのコーディネートや指導などをしっかり行ってほしい。
- ・ 市町村によりだいぶ不登校対応が違う。教育偏差値が低い市町村のため課題が多すぎる。
- ・ 同じフリースクールに通っていても住んでいる市町村により取り組み方が違う、学校の関心も各学校によって違う。
- ・ 行政の制度や施策がわからない。中学在籍のときは、何も情報が得られず、親が調べるしか方法がない。学校は行く場所に認識が強すぎて、不登校になると親は孤立して不安感が強い。親も子も居場所がなくなる。小中学の役員は、子どもが不登校になってもやらなくてはならない。学校の保護者役員の制度をなくし、行政が主になってやってほしい。
- ・ 様々な情報はホームページ等に載せているのだろうけど、取りに行かないと得られないものは本当に必要な人には届かないと思う。誰でも良い情報に出合えるようになる いいと思う。
- ・ 月上限1万円の補助金がある。とても有難い。市町村で補助金の額は違う。住所がある市町村にフリースクールがないところもあるので、市町村での補助金の差がなくなる いい。

3. フリースクール等の運営支援・環境整備（開所時間・食事・送迎など）（16件）

- ・ フリースクールの運営が厳しく、助成金がおりにるためには、もっと参加者が必要。スタッフはほぼボランティア。経費の面で子どもたちを通わせられない家庭も多い。そのような悪循環で子どもの学びや居場所を守ることがとても難しい。現状を知って、助成金制度を充実して欲しい。
- ・ 無料で利用出来るフリースクールへの支援拡大。毎日開所していればありがたい。
- ・ 発達障害の子も安心して利用可能なフリースクールが増えるとよいと思う。発達障害で不登校になると行き場が限られるので、情報ももっとオープンにしてほしい。変に閉じていて非常に分かりづらい。
- ・ 学校以外の場所でも学べる環境を整えてほしい。（例えばフリースクールに講師を単発で招くなど…）
- ・ うちの市町村の中間教室を綺麗にしてほしい（トイレやエアコンが故障したり、こどもが安心して1日を過ごせる環境が整っていない。夏は酷い暑さのなか過ごしていた）
- ・ 働いているので、送迎のやりくりが大変。送迎サービスが欲しい。他のイベントや活動の機会も送迎できず諦めている。学校に行っていない子供の多様な学びや居場所をもっと増やしてほしい。
- ・ 自主学习できる場がたくさんあると良いと思う。
- ・ 居場所として、心のケアも必要！放置では無く、見守り、遊び中心に行なっている居場所はとても大切。学習を目的として行なっていない場所への偏見差別を無くして欲しい。そういうところにも補助やサポート、相談員が必要と思う。各学校によって対応の違いがあるが、学校以外で学べる場所の選択を子どもも親も周知できるシステムをお願いしたい。保護者の職場、勤務先での理解促進に環境を良くしていただきたいと思う。スタッフの方の働きやすい環境も考えて欲しい。
- ・ 校舎を移転するための候補場所の確保に困っているので、相談に乗って頂きたいし、補助金など対策を切に願う。
- ・ 利用したくても、開所時間や日数が少なくなかなか利用できない。結果、子供に無理して学校に行かせるか、ひとりで留守番をさせるしかないのが現状。親の働く時間に合わせて開所していただけるよう、ぜひ行政の方からも支援をお願いしたい。
- ・ 成長期の子供なので、給食のような栄養バランスの取れた食事を学校以外の場所でも利用出来るようになると大変ありがたい。日頃から支援をいただいている先生方には大変感謝している。
- ・ 家庭での生活、情緒的なところなど、医療センターでの作業療法など少し訓練できるようなシステムがあると、成長にも繋がるのかなと思った。
- ・ ゲーム依存にならない環境作り。
- ・ 自分の子が行っているフリースクールは利用者が少なく、運営が大丈夫か心配である。子供の利用がある限りフリースクールが安定して運営できるスクールへの補助も手厚くしてほしい。
- ・ 学校やフリースクールなどの周りの場所で交流する場所や機会があると良いと思う。
- ・ フリースクールも学校の一環ならば体調管理をして頂き、感染症の際の出席停止や体調不良時は欠席するなど保護者に呼びかけ連携をしてほしい。風邪をもらう事がある。

4. 学校教育・教員・スクールカウンセラー等公教育への要望(13件)

- ・ 小学校の支援級主任、担任が個別支援教育について無知で、保護者に秘密裏に支援者会議を行う、支援計画、指導計画も作らず、特性による理解や合理的配慮が得られにくい。教育委員会や学校長に現状を伝えても、教師の質、学校の体質は変わらない。都市部から移住してきたのだが、長野県の特別支援教育を知り、とても残念に思う。教師の育成、研修などの機会を増やし、形だけでない学校教育、子どもに寄り添う学びの場を作ってほしい。
- ・ 義務教育の学校制度に無理がきている時代だと思う。子供の学びの幅を広げてあげて、選択肢を増やして欲しい。また、不登校になった場合にどうすべきかの対応をしっかりとわかるように作ってほしい。
- ・ スクールカウンセラーの立ち位置や役割の拡大。結局のところ、合わないとわかっているのに学校内でなんとかする範囲内では対応いただけなかった。特別支援級も勧められたが、予想通り子どもには合わなかった。もっと彼らにできる事を与えて欲しい。学校の中でもっと、権限を持って欲しい。学校内外に強く働きかけることができる立場になって欲しい。アクティブラーナーの我が子には現制度上の公立校は合わない。そのような子たちが困ることがないよう、スクールカウンセラーが行政・家庭・学校・各フリースクール等の間を取り持つ存在であってほしい。そうすれば右往左往して疲れはてる親子はもっと、減ると思う。
- ・ 学校側がフリースクールについて知ること、理解することをしてほしい。
- ・ 日本の義務教育内容の改変、柔軟な多様性。
- ・ フリースクールに通う以前は市町村内にある支援教室も何度か利用していましたが、子供の人数が少ない割に勉強を教えてくれるわけでもなく、自分で用意した教材やすららで自習のみ。居場所がある事はとても助かるが既に学習も追いついておらず、どこから手をつけて良いのかわからずの子供にしたら、そこへ通ったところで疲れるだけかと。不登校になる子供は、大人しい子供の方が多いと思うので気持ちも伝える事ができないと思いますし、自己肯定感も低い子もいるので、不登校生徒の気持ちがわかるような専門の方や知識のある方でないと通うのは難しいと思う。
- ・ 我が子には発達障害があり、不登校となった2年生の3月時点で学校の支援級へ入級希望を伝えましたが、入級判定等のため、半年ほどは支援級の利用が1日1時間や2時間しかなく(体験)、担当の先生不在の日は支援級が使えない、など安定的には使えず、行き場をなくしてフリースクールの利用に至った。結果半年ほどはほとんど学校へ通えなくなりました。その後、支援級へ入級できてからはお陰様でほぼ毎日学校へ通うことが出来、疲れたときに、月に数回フリースクールを利用して過ごしている。様々な規定があることは承知しているが、支援級への入級判定の時期や頻度など、もう少し選択肢があると、よりありがたかったと思う。ご検討をお願いしたい。
- ・ 学校をもっと自由な場所、助け合える思想がある場所にしてほしい。
- ・ 社会全体が多様性への理解を深められるようにしてほしい。まずは子どもたちと直接かわる教員への指導などに力を入れてほしい。教員の関わり方が、子どもたちの価値観形成に強い影響を与えることを理解してほしい。多様な価値観を自然に受け入れ、個性を尊重し合える社会になってほしいと心から願っている。

- ・ 信州型フリースクール認証制度やきっかりンフェスなど、フリースクール同士や民間のつながりや活動はかなり活発化して、子どもの選択肢は広がっていると感じる。学校で働く者としては、現状では教室に行けているけど苦しい思いをしている子どもの存在も少なくないと思う。そのような子たちに対しての支援やアウトリーチで、子ども自身が選択肢を知り多様な学び方を選べるような世の中になっていくことが大きな課題かと思う。教育現場が苦しい子の思いに蓋をせず、本来の多様な学びの場に子どもがアクセスでき、保護者も柔軟に選択しやすい公教育への転換ができるためには何が出来るかと日々模索している。内部のひとりとして少しずつアクションは起こしているが、地域福祉や包括的支援という面では、教育現場はまだまだ囲われて（囲って）いるなど実感する。保護者の意向（抵抗感）で、フリースクールや多様な学びの場にアクセスできない子どもの多さも。
- ・ 全ての学校関係者が不登校について深く理解し、子どもの多様性を認め、柔軟な義務教育期間の過ごし方のサポートを実践してほしい。
- ・ 学校に入っているカウンセラーは、学校のことをよく知らない人らしく、学校と連携していないと感じた。市町村の担当職員は、自分の話ばかりする人で、アドバイスと感じるものは何も得られず嫌な気持ちだけが残った。学校の先生は、基本的に何もしてくれないと感じる。学校に行かなくてもいろんな選択肢が欲しい。
- ・ 不登校状態でも義務教育期間中なので、授業がオンラインで受けられる等の体制や意識、設備を整えてほしい。また、現在の支援級や相談や行政の支援が、登校しないと受けられないものが多いので、不登校への相談や支援を拡充してほしい。例えば、学習障害の支援ができる方のオンライン指導など、週に1時間でもあれば、学校とつながっている、義務教育が受けられている感覚がある。

5. 医療・福祉との連携(1件)

- ・ 不登校で、フリースクールを利用する子供達の背景には、病気や怪我、身体的障害、精神的障害、発達障害など、通院している子供たちもいる。学校とフリースクールと市町村だけでなく、病院やケア施設などを含めて、制度のあり方を考えて頂きたい。

6. 施策への感謝・評価・期待(5件)

- ・ 様々な方達のおかげで、長野県ではフリースクールに関する行政の動きが活発で、大変ありがたい。益々これからフリースクールの子供達と保護者が安心して通えるように整備していただけたらと思う。
- ・ このような取り組みのお陰で子どもが登校できるようになったので、引き続き他の子供達へも支援が行き届くように頑張りたい。
- ・ 市町村からの保護者への補助制度が大変有り難い。また制度2年目になる時点で、当事者の声を反映しさらに利用しやすくして下さった担当者の方々にも感謝している。
- ・ 子供の未来についての政策に期待する。
認証制度の取り組みにより、「学校以外の学びの場」という多様な学びの選択について周囲の理解は進んだと感じている。今後への期待だが、子どもたちの成長は待ってくれないので、制度改革や様々な検討課題への取り組みをスピーディに進めて頂きたい。